

**令和元年度
シーズ・ニーズマッチング強化事業
事業報告**

令和2年3月

公益財団法人テクノエイド協会

はじめに

障害者の自立を支援する障害者自立支援機器（以下「支援機器」）については、ノーマライゼーションの理念に基づき、障害者の活動や参加を促す観点から、極めて重要な役割を果たすものであり、障害者のニーズを的確に捉えた製品開発と普及の促進が求められています。

一方、障害者福祉の現場において、真に必要な支援機器を開発するためには、着想の段階からユーザーや支援者のニーズと開発や研究者等のシーズをマッチングすることが大切であり、シーズ志向型の開発とならないよう、各種障害者の置かれている状態は勿論のこと、現場の課題やニーズを的確に捉えた支援機器の開発に繋げる取り組みが重要です。

本事業では、ユーザー側の持つニーズと、開発側が持つシーズのマッチングを目的とし、真に必要な支援機器が開発されるよう意見交換を行える場を設けると共に、効果的なモニター評価を行う機会を創出することを目的として交流会を開催しました。

今年度は、多くの方にご来場いただけるよう、新規の出展企業等の参加を促すことや、周知先の増大、支援機器の展示・意見交換以外に、基調講演、活動報告、支援機器開発及び利用報告、ワークショップ等の併催イベントの開催を強化いたしました。その結果、大阪、福岡、東京の3会場で来場者数は過去最高の1,034名に達することができました。

また、例年、交流会は大都市で開催していますが、新しい試みとして、交流会への来場が容易でない地域に出向き、支援機器に係る地域の関係者が集い、課題解決に向けた具体的な支援機器のイメージを創出することを目的とした「ATAサテライト（意見交換会）」を北海道、高知、佐賀の3ヵ所で開催し、多くの関係者の方々にお集りいただきました。今後も継続して、地域での支援機器開発に資する取り組みにつながれば幸いです。

本報告書は、前述の事業結果を取り纏めたものとなります。本事業の実施にあたり、ご協力いただきました、障害者当事者の団体、職能団体、出展企業等、多くの方々から御礼を申し上げます。

令和2年3月

公益財団法人テクノエイド協会

目 次

第1部 本編

1. 目的	6
2. 事業概要	6
(1) シーズ・ニーズマッチング交流会企画委員会の設置	6
(2) シーズ・ニーズマッチング交流会の企画	7
(3) 交流会開催後のフォローアップ	9
(4) ユーザー側のニーズやシーズ側の情報収集・発信	10
(5) 障害者自立支援機器に係るニーズ集の作成及び活用について	10
(6) 交流会の目標について	10
(7) 実施スケジュール	10
3. 事業結果	12
(1) シーズ・ニーズマッチング交流会企画委員会の開催結果	12
(2) 出展企業等の募集から決定について	12
(3) 交流会の周知について	16
(4) シーズ・ニーズマッチング交流会の開催結果	20
(5) A T A サテライト（意見交換会）の実施結果	30
(6) 参加人数及びアンケート結果	38
(7) 交流会の目標及び結果	51
(8) 今後の交流会の方策、在り方について	53

第 1 部 本編

シーズ・ニーズマッチング強化事業

1. 目的

障害者及び障害児（以下「障害者」。）の自立を支援する「障害者自立支援機器（以下「支援機器）」は、障害者の活動や参加を促すものとして、極めて重要な役割を果たすものである。

一方、障害者福祉の現場において、真に必要とされる支援機器を開発するためには、着想の段階からユーザーや支援者のニーズと開発や研究者等のシーズをマッチングすることが大切であり、シーズ志向型の開発とならないよう、各種障害者の置かれている状態は勿論のこと、現場の課題やニーズを的確に捉えた支援機器の開発に繋げる取り組みが重要である。

本事業では、ユーザー側が持つニーズと開発側が持つシーズのマッチングを目的とした支援機器に関する交流会を企画・開催し、実用的な支援機器が開発されるよう、試作機等を用いて想定するユーザーと開発側が膝を交えて意見交換できる場を設けるとともに、効果的なモニター評価等を行う機会を創出することとする。

2. 事業概要

(1) シーズ・ニーズマッチング交流会企画委員会の設置

支援機器に関する障害関係団体及び、医療・福祉専門職等から構成する、交流会企画委員会を当協会に設置し、シーズ・ニーズマッチングのコーディネート機能及び体制を構築することとした。

本委員会では「シーズ・ニーズマッチング交流会」の企画及び運営に係わる審議を行い、より良い交流会等の実現に向けた検討を行うこととした。

また、本委員会を構成する障害関係団体には、①支援機器に関する課題やニーズをご提供いただくこと②本交流会において、ニーズ側とシーズ側の交流が活性化するよう積極的に交流に関与するとともに、多くの当事者の方々が本交流会に参加いただけるよう呼びかけをお願いした。

交流会企画委員会 名簿

(五十音順・敬称略)

氏名	役職名
逢坂 忠	社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合
赤澤 康史	社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団 兵庫県立総合リハビリテーションセンター 福祉のまちづくり研究所
安藤 信也	公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会
庵 悟	社会福祉法人 全国盲ろう者協会
大山 孝二	一般社団法人 日本ALS協会
小川 光彦	一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会

氏名	役職名
小山万里子	ポリオの会
佐藤 加奈	社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会
園田 尚美	NPO法人 日本失語症協議会
増澤 高志	ASD（自閉スペクトラム症）生活環境研究会

交流会企画委員会 オブザーバー名簿

(敬称略)

氏名	役職名
夏目 健夫	国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 イノベーション推進部
小林 信喜	国立研究開発法人 情報通信研究機構 デプロイメント推進部門 情報バリアフリー推進室
田上 未来	厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
本田 優歩	厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
金子 将直	厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 企画課自立支援振興室

(2) シーズ・ニーズマッチング交流会の企画

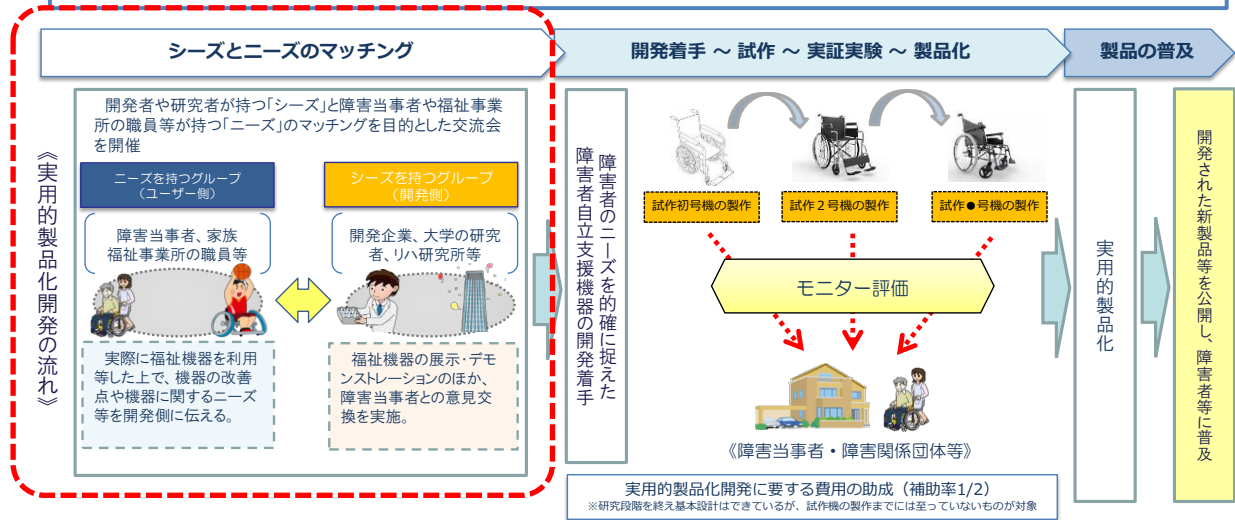
障害当事者のニーズをよりの確に捉えた支援機器開発の機会を創出すべく、シーズとニーズのマッチング交流会を開催した。

本交流会では、開発企業が試作中の支援機器等を会場へ持ち込み、障害者及び介護者をはじめ、企業、研究者、開発を支援する機関等が膝を交えて意見交換等を行う場を設けることとした。

各会場では、開発中の試作機等の展示及び、デモンストレーション、意見交換等を行った。また、併催イベントとして、基調講演、活動報告、開発及び利活用報告、ワークショップ、令和元年度障害者自立支援機器等開発促進事業採択企業による成果報告会を企画した。

【事業内容】

- マーケットが小さく事業化や実用的製品化が進まない障害者自立支援機器について、企業等が障害当事者と連携して開発する取組に助成を行い、新たな企業の参入を促し、各企業が適切な価格で障害者が使いやすい機器を製品化し、普及を図る。
- 加えて、筋電義手など、ロボット技術を活用した障害者向けの自立支援機器の開発促進を図る。



①開催日時及び場所

- 大阪会場 令和元年12月17日(火)～18日(水)
時間 11:00-17:00 / 10:00-16:00
会場 OMM (大阪マーチャンドイズマート)
- 福岡会場 令和2年1月14日(火)～15日(水)
時間 11:00-17:00 / 10:00-16:00
会場 福岡国際会議場
- 東京会場 令和2年2月12日(水)～13日(木)
時間 11:00-17:00 / 10:00-16:00
会場 T O C 有明コンベンションホール

②各会場の設営予定ブース数

- 大阪会場：全60ブース
- 福岡会場：全40ブース
- 東京会場：全70ブース

③併催イベント

- 基調講演(80分)・・ 全会場
- 支援機器の活動報告講演(40分)・・ 全会場
- 支援機器の開発及び利用報告講演(30分)・・ 全会場
- ワークショップ(90分)
【特別講演】「臨床現場の観察から始める支援機器開発」・・ 大阪会場
【テーマ】「ニーズの探索、深掘りの重要性を理解する」・・ 大阪会場

【テーマ】「強化段ボールで作るテクノエイド」・・・東京会場

○デモ・体験イベント（90分）

【テーマ】体験広場～最新の機器を使ってみよう～・・・福岡会場

【テーマ】きっず広場～こども向け機器展示・体験～・・・東京会場

○令和元年度 障害者自立支援機器等開発促進事業成果報告・・・東京会場

（3）交流会開催後のフォローアップ

交流会の成果を着実に支援機器の開発に繋げるため、企画委員及び関係団体等と連携を図り、交流会開催後（公流会の開催前も含む）も開発企業に対して、随時必要な支援を行う。

具体的には以下の取り組みとした。

①相談窓口の設置

ユーザー側や開発企業側の相談に応じる相談窓口を設け、常時対応する。

②モニター評価実施にあたっての支援・協力

開発企業の要望に応じ、関係団体等と連携を図り、モニター評価の実施施設や想定するユーザーを紹介する。

③ATAサテライト（意見交換会）の開催

交流会への参加が容易ではない地域に出向き、支援機器に係わる地域の関係者が集う「ATAサテライト」を開催した。

ATAサテライトでは、当該地域の支援機器に関する有識者、障害者とその介護者をはじめ、産業振興団体や開発企業等が集い、障害者が置かれている現状を共有化し、かつ技術進歩の動向を踏まえて、課題解決に向けた具体的な支援機器のイメージを提案することとする。

○開催地域及び分野、日程（※各地域2回の開催とした）

・高知ATAサテライト

【検討テーマ】「南海トラフなど災害時の対応、コミュニケーション機器 他」

【日時・会場】 会場：高知県立ふくし交流プラザ

第1回 令和元年10月11日（金）13：30～16：00

第2回 令和元年12月20日（金）13：30～16：00

・佐賀ATAサテライト

【検討テーマ】「特別支援学校における支援機器」

【日時・会場】 会場：佐賀県在宅生活サポートセンター

第1回 令和元年10月23日（水）10：00～12：00

第2回 令和元年12月10日（火）10：00～12：00

・北海道ATAサテライト

【検討テーマ】「福祉作業所における支援機器」

【日時・会場】 会場：社会福祉法人クピド・フェア

第1回 令和元年10月18日（金）13：00～16：00

第2回 令和2年 1月20日（月）13：00～16：00

(4) ユーザー側のニーズやシーズ側の情報収集・発信

以下のシステム等を活用し、支援機器に関する情報の収集及び発信を行うこととした。

①福祉用具ニーズ情報収集・提供システム

障害者及び家族、支援者等による支援機器に関する課題やニーズの書き込み、企業側による新製品や技術等の紹介を行う。

②障害者自立支援機器情報システム

実用化した支援機器については、その情報を広く周知するため本システムを活用して情報提供を行う。

③障害者（いきいき）支援機器普及アンテナ事業との連携

各地域における取組の事例を紹介し、交流会や専用サイトにて地域の情報を他の地域に広める活動を積極的に行う。

(5) 障害者自立支援機器に係るニーズ集の作成及び活用について

障害当事者のニーズを踏まえた支援機器の開発・普及を促進するため、企画委員が所属する障害者団体等の協力を得て、障害者自立支援機器に係るニーズ集を作成することとし、その課題解決に向けた支援機器の開発・普及を喚起することとした。

ニーズ集の作成は従来から障害者団体より協力を得て作成しているが、今年度は以下のように名称および項目について再検討し、収集をすることとした。

ニーズ集名：「こんなものがあつたらいいなニーズ集」

仕様：「A. 場面」、「B. 課題」、「C. 解決すべき方法・機能・提案」の順に記載することとした。

各会場にてパンフレット等の配布資料一式に、ニーズ集を同封し、多くの来場者へ周知することとした。

(6) 交流会の目標について

交流会への来場者が増加するよう、以下の内容で目標を立てることとした。

○昨年度の3割増を目標とする来場者数とした。

	大阪会場	福岡会場	東京会場
来場目標数	430名（320名）	190名（127名）	540名（362名）

※（ ）は平成30年度のシーズ・ニーズマッチング交流会来場者数を指す。

○出展企業において新規出展企業等を全体の3割以上とした。

○企画委員における各当事者団体において、各会場で50名以上の当事者及びご家族等を招待する。

(7) 実施スケジュール

次ページを参照。

令和元年度 シーズ・ニーズマッチング強化事業 実施スケジュール (年間)

法人名：公益財団法人テクノエイド協会

4月	5月	6月	7月	8月	9月
	<p>交流会会場の仮予約、決定</p>	<p>専用HPの設置、交流会開催のPR (年度末まで)</p> <p>委託先の選定、決定</p>	<p>★第1回企画委員会(7/17)</p> <p>ニーズの取り纏め、配布・HP掲載・周知</p> <p>出展要項の送付・出展者の募集・確定</p>	<p>ニーズの取り纏め、配布・HP掲載・周知</p> <p>出展要項の送付・出展者の募集・確定</p> <p>当日の運営マニュアルの作成</p>	<p>○第1回ATAサテライト札幌 (10/18)</p> <p>○第1回ATAサテライト高知 (10/11)</p> <p>○第1回ATAサテライト佐賀 (10/23)</p> <p>ユーザー側のニーズやシーズの情報収集・発信 (年度末まで)</p> <p>併催イベント 講演依頼及び連絡調整</p>
<p>専用HPの設置、交流会開催のPR (年度末まで)</p> <p>開催パンフレット確定及び送付</p> <p>ユーザー側のニーズやシーズの情報収集・発信 (年度末まで)</p> <p>交流会後のフォローアップ (年度末まで)</p>	<p>交流会後のフォローアップ (年度末まで)</p>	<p>交流会後のフォローアップ (年度末まで)</p> <p>交流会 (大阪開催 12/17-18)</p> <p>○第2回ATAサテライト高知 (12/20)</p> <p>○第2回ATAサテライト佐賀 (12/10)</p>	<p>交流会 (福岡開催 1/14-15)</p> <p>○第2回ATAサテライト札幌 (1/20)</p>	<p>交流会 (東京開催 2/12-13)</p> <p>★第2回企画委員会(3/9)</p> <p>成果報告の取り纏め</p>	<p>3月</p>
10月	11月	12月	令和2年1月	2月	3月

3. 事業結果

(1) シーズ・ニーズマッチング交流会企画委員会の開催結果

①第1回 シーズ・ニーズマッチング交流会 企画委員会

【日時】 令和元年7月17日（水）10：00～11：30

【場所】 TKP市ヶ谷カンファレンスセンター 3階（東京都内）

【実施内容】

○報告事項

- ・本事業の実施について
- ・交流会「出展企業等」の募集
- ・併催イベントの企画検討
- ・ATAサテライト（意見交換会）の実施

○検討事項

- ・交流会の内容と目標
- ・ニーズ集の作成と活用
- ・併催イベントの企画検討
- ・ATAサテライト（意見交換会）の実施

②第2回 シーズ・ニーズマッチング交流会 企画委員会

【日時】 令和2年3月9日（月）14：00～15：30

【場所】 テクノエイド協会 会議室

【実施内容】

○報告事項

- ・本事業の実施について
- ・出展企業等の募集から決定
- ・交流会の周知
- ・交流会の企画及び併催イベントの開催結果
- ・ATAサテライト（意見交換会）の実施結果
- ・参加人数及びアンケート結果
- ・交流会の目標及び結果

○検討事項

- ・今後の交流会等の在り方について（意見交換）

(2) 出展企業等の募集から決定について

①出展企業等の募集について

令和元年7月12日（金）～8月23日（金）までの期間を出展企業及び団体の募集期間として設定した。

募集は、過去の本交流会に出展した支援機器の開発企業や、来場したことのある開発企業、さらには福祉用具情報システム（TAIS）の登録企業、介護ロボットフォーラムに参加した企業等に対して、出展案内を送付して周知を行った。

出展申込書は、当協会のホームページ内に設けた本交流会の専用ページからダウンロードできるようにした。

②募集の期間

令和元年7月12日(金)～8月23日(金) 17時必着

③周知の方法

○郵送

- ・ 発送数 : 2,011カ所
- ・ 主な送付先 :

過去の開発促進事業応募企業
過去のシーズ・ニーズマッチング交流会出展及び来場企業
福祉用具情報システム(TAIS)登録企業(抽出)
介護ロボット関連企業、都道府県・政令市、報道機関、地方産業組織 等

○専用ホームページの開設

みんなで考えよう! 障害者自立支援機器
「シーズ・ニーズマッチング交流会2019」
～作る人と使う人の交流会～

 【大阪開催】 2019年12月17日(火)～18日(水) 11:00～17:00/10:00～16:00 出展機器はこちら	 【福岡開催】 2020年1月14日(火)～15日(水) 11:00～17:00/10:00～16:00 出展機器はこちら	 【東京開催】 2020年2月12日(水)～13日(木) 11:00～17:00/10:00～16:00 出展機器はこちら
場 所 : 大阪マーチャントズマーケットAホール アクセス : 地下鉄谷町線「天満橋」駅北改札口 京阪電車「天満橋」駅南改札口	場 所 : 福岡国際会議場 アクセス : 京「博多駅」博多口からバスに乗り 西鉄・地下鉄「天神駅」からバスに乗り 地下鉄「博多駅」からバスに乗り	場 所 : TOC有明Eコンベンションホール アクセス : りんかい線「国際展示場駅」 ゆりかもめ「東京ビッグサイト駅」 ゆりかもめ「有明駅」
		

※地図をクリックすると、拡大された地図が表示されます。

● 出展申込みを希望される企業の方 [ページの先頭へ](#)

- 出展要項 (PDF形式: 836KB)
- 公募期間 **令和元年8月23日(金) 17:00必着**
- 出展申込書 (WORD形式: 24KB)

○YouTubeによる動画配信

本交流会の趣旨や目的、昨年度の開催状況等について、YouTubeを活用して広く配信した。

● 障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会2018及び2016」開催記録 [ページの先頭へ](#)

● 【開催記録はこちら】
「シーズ・ニーズマッチング交流会2018」記録動画



シーズ・ニーズマッチング交流会2018 記録動画
後で見る 共有

「シーズ・ニーズマッチング交流会2016」記録動画



○関係会議にて配布

「介護ロボットメーカー連絡会議」に参加された、約220名の介護ロボットメーカー等に対して周知した。(令和元年7月9日実施)

○福祉用具情報システム(TAIS)登録企業に対する周知

TAISに登録されている国内の福祉用具製造事業者・輸入事業者、約800社の担当者に対して、電子メールにて周知した。(令和元年7月12日実施)

○障害者団体等へ周知の依頼

企画委員が所属する障害者団体を通じて、開発企業等の周知を依頼した。

④応募結果

各会場の出展小間数に関しては、会場の広さやブースの配置、来場者の導線、消防法等を考慮して以下の小間数とした。

各会場における出展小間予定数

会場	出展予定小間数	応募出展者数
大阪(大阪マーチャндаイズマート)	全60ブース	全70ブース
福岡(福岡国際会議場)	全40ブース	全47ブース
東京(TOC有明)	全80ブース	全95ブース

各会場とも当初予定した出展小間数より多くの出展希望があり、以下の選定基準に沿って選考し、事務局にて決定した。

選考にあたっての基準として、

- ・過去に出展のない新規の企業・団体又は機器であるか(出展回数等)
- ・所定の申込書の内容に不備がないか
- ・過去に出展予定となっていたにも関わらず、直前に出展を取りやめた等が無い
- ・分野毎に偏りが無い等

を考慮して予定の範囲内とした。

分野毎の内訳は、以下のとおりである。

【3会場の合計】

区分	参加数
1. 令和元年度 障害者自立支援機器等開発促進事業採択企業	9 企業
2. 聴覚・視覚障害者の支援機器	17 企業
3. 肢体不自由者の支援機器	22 企業
4. 難病患者・障害児の支援機器	2 企業
5. レクリエーション・コミュニケーション支援機器	15 企業
6. ロボット・脳科学に関する支援機器	9 企業
7. 就労支援に関する支援機器	2 企業
8. 障害者の支援をより行いやすくなる支援機器	15 企業
9. その他	2 企業
10. 障害団体・開発支援団体・職能団体 他	14 団体
合 計	107 企業・団体

【大阪会場】

区分	参加数
1. 令和元年度 障害者自立支援機器等開発促進事業採択企業	5 企業
2. 聴覚・視覚障害者の支援機器	13 企業
3. 肢体不自由者の支援機器	11 企業
4. 難病患者・障害児の支援機器	1 企業
5. レクリエーション・コミュニケーション支援機器	7 企業
6. ロボット・脳科学に関する支援機器	2 企業
7. 就労支援に関する支援機器	1 企業
8. 障害者の支援をより行いやすくなる支援機器	7 企業
9. その他	1 企業
10. 障害団体・開発支援団体・職能団体 他	12 団体
合 計	60 企業・団体

【福岡会場】

区分	参加数
1. 令和元年度 障害者自立支援機器等開発促進事業採択企業	4 企業
2. 聴覚・視覚障害者の支援機器	8 企業
3. 肢体不自由者の支援機器	5 企業
4. 難病患者・障害児の支援機器	0 企業
5. レクリエーション・コミュニケーション支援機器	6 企業
6. ロボット・脳科学に関する支援機器	1 企業
7. 就労支援に関する支援機器	1 企業
8. 障害者の支援をより行いやすくなる支援機器	3 企業
9. その他	1 企業
10. 障害団体・開発支援団体・職能団体 他	12 団体

合 計	41 企業・団体
-----	----------

【東京会場】

区分	参加数
1. 令和元年度 障害者自立支援機器等開発促進事業採択企業	9 企業
2. 聴覚・視覚障害者の支援機器	12 企業
3. 肢体不自由者の支援機器	12 企業
4. 難病患者・障害児の支援機器	2 企業
5. レクリエーション・コミュニケーション支援機器	11 企業
6. ロボット・脳科学に関する支援機器	8 企業
7. 就労支援に関する支援機器	2 企業
8. 障害者の支援をより行いやすくなる支援機器	9 企業
9. その他	2 企業
10. 障害団体・開発支援団体・職能団体 他	14 団体
合 計	81 企業・団体

(3) 交流会の周知について

①交流会専用ホームページの開設

【期間】令和元年7月10日(水)～

【周知方法】協会TOPページから順次最新情報を更新した。

- 開催日時及び場所のご案内
- 出展要項の掲載
- 一般来場申込の事前申込書
- 交流会チラシの掲載
- 出展企業及び出展機器一覧の掲載
- ワークショップ参加申込書
- 公式パンフレットの掲載
- ATAサテライト(意見交換会)の開催案内

<専用サイトの画面> <http://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/index.shtml>

みんなで考えよう! 障害者自立支援機器

「シーズ・ニーズマッチング交流会2019」

～作る人と使う人の交流会～



【大阪開催】
2019年12月17日(火)～18日(水)
11:00～17:00/10:00～16:00

[出展機器はこちら](#)

場 所 : 大阪マリーナシティスマートAビル
アクセス : 地下鉄谷町線「天保山」駅北改札口
京阪電車「天保山」駅東改札口





【福岡開催】
2020年1月14日(火)～15日(水)
11:00～17:00/10:00～16:00

[出展機器はこちら](#)

場 所 : 福岡国際会議場
アクセス : JR「博多駅」博多口から徒歩
西鉄・地下鉄「天神駅」から徒歩
地下鉄(西鉄博多)から徒歩





【東京開催】
2020年2月12日(水)～13日(木)
11:00～17:00/10:00～16:00


[出展機器はこちら](#)

場 所 : IJCC国際コンベンションホール
アクセス : 有明線「国際展示場」
ゆりかもめ「東京ビッグサイト駅」
ゆりかもめ「有明駅」



※地図をクリックすると、拡大された地図が表示されます。

<お知らせトピックにて最新情報を提供>

**公益財団法人テクノエイド協会**
The Association for Technical Aids(ATA)

Welcome to association for technical aids' home page

サイト内検索 [検索](#)[協会紹介](#)[アクセス](#)[リンク・著作権・免責事項](#)[個人情報保護方針](#)[情報公開](#)[賛助会員](#)[リンク集](#)

[ホーム](#)[障害者自立支援機器](#)[シーズ・ニーズマッチング強化事業](#)

> **障害者自立支援機器** **シーズ・ニーズマッチング強化事業**[ページの先頭へ](#)

- **お知らせトピックス**[ページの先頭へ](#)

 - [障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会2019」の目的](#)
 - [シーズニーズマッチング交流会2019 開催概要](#)
 - [ワークショップ参加申込書](#)
 - [交流会公式パンフレット](#)
 - [交流会チラシ](#)
 - [意見交換会（ATAサテライト）開催のご案内](#)
 - [交流会プログラム](#)
 - [障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会2018及び2016」開催記録](#)
 - [お問い合わせ先](#)
 - [出展申込みを希望される企業の方](#)
 - [シーズ・ニーズマッチング交流会2019 講演資料](#) **NEW!!**
 - [シーズ・ニーズマッチング交流会2019 開催結果](#) **NEW!!**
 - [ATAサテライト（意見交換会）の開催結果](#) **NEW!!**

● **障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会2019」の目的**[ページの先頭へ](#)

本交流会は、障害者自立支援機器の開発を促進することを目的に、障害当事者をはじめ、ご家族、福祉・医療従事者などの「**機器を使う側（ニーズ）**」の方々と開発企業、大学、研究機構、産学官交流振興組織などの「**機器を作る側（シーズ）**」の方々が、じっくり膝を交えて交流することができる場を提供するものです。

※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者 等
※シーズ側：開発メーカー、地域の産業振興団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関 等

<YouTubeによる動画配信>

シーズ・ニーズマッチング交流会がこういった雰囲気で行われるのか等の交流会のイメージが初めての方でも理解していただけるよう、過去に開催した交流会の動画をYouTubeにより閲覧できるようにした。

②チラシ及び公式パンフレットの作成、配布

【期間】令和元年11月上旬～

【周知方法】公式パンフレットを作成し障害団体、施設、開発企業など幅広く周知した。

【送付物】公式パンフレット、交流会チラシ（裏面に参加申込書を記載）、
ワークショップ申込書

【主な送付先】約6280カ所

- 障害団体（日本障害者協議会会員、全国の障害当事者団体 等）
- 開発企業（過去の採択企業、TAIS登録企業、過去の交流会出展企業 等）
- 行政（都道府県、市町村の障害主管課）
- 過去の交流会一般来場者
- 職能団体（作業療法士・理学療法士協会）
- 介護実習・普及センター
- 全国のリハビリテーションセンター
- 全国の更生相談所

- 介護ロボット関連企業または施設
- 義肢製作所
- 特別支援学校等
- 報道機関
- その他（賛助会員、個人あて）

計 6,286カ所・部

③関係団体への周知

厚生労働省及び関係機関・団体の協力のもと、多くの団体等へ交流会開催を周知した。主な周知先は以下のとおりである。

- 日本理学療法士協会：学会HPの掲載
 - ・日本基礎理学療法学会学術大会：チラシ250部を設置
 - ・基礎理学療法部会：会員8,000名へメール送信
- 日本作業療法士協会：会員向けHPに掲載
 - ・静岡県作業療法士協会：協会HPに掲載
- 日本言語聴覚士協会：機関紙への掲載
- 日本生活支援工学会：学会当日チラシ300部を設置、会員へメルマガの送信
- 日本医療社会福祉協会：HPに掲載、チラシ200部の送付
- 公益社団法人日本リハビリテーション医学会：HPに掲載
- 独立行政法人福祉医療機構WAM：イベントセミナーHPに掲載
- JASPA：会員へ周知のお願いを実施
- 一般社団法人日本義肢装具学会：会員へ周知のお願いを実施
- 日本義肢協会：関係者各位へ周知のお願いを実施
- バリアフリー展：会員へメルマガの送信、HPに掲載
- 日刊工業新聞：関係者各位へメールングリストにて周知のお願いを実施
- 厚生労働省：Facebook、Twitter、厚生労働（雑誌）より周知
- 佐賀県在宅生活サポートセンター：チラシ50部を設置
- 社会福祉法人福岡市身体障害者福祉協会
 - ・福岡市障がい者社会参加推進センター：公式パンフレット100部設置
- その他、大学（リハビリテーション学科、福祉学部）やロボケアセンターへ周知を実施

④各種イベント開催時における広報活動

各種イベントの場を活用して公式パンフレット・チラシを配布し、周知を行った。主な周知先は以下のとおりである。

- 国際福祉機器展（H.C.R）
 - 【期間】令和元年9月25日（水）～27日（金）
 - 【周知方法】開催案内を記したチラシの配布を行った（300部）
交流会開催のパネルを協会内ブースに掲示して啓発した
- 福祉用具関係者 新年交流会
 - 【期間】令和2年1月17日（木）

【周知方法】公式パンフレットの配布を行った（130部）

○介護ロボットフォーラム

【期間】令和2年1月24日（金）

【周知方法】来場者へ公式パンフレットの配布を行った（400部）

○ATAサテライト（意見交換会）

意見交換会参加者へ開催の告知、チラシ、パンフレットの配布を行った。

【北海道開催】 第1回 令和元年10月18日（金）

第2回 令和2年 1月20日（月）

【高知開催】 第1回 令和元年10月11日（金）

第2回 令和元年12月20日（金）

【佐賀開催】 第1回 令和元年10月23日（水）

第2回 令和元年12月10日（火）

○各種学会等の場を活用して広く周知を行った。

【チラシ】

障害者自立支援機器
シーズ・ニーズマッチング
交流会2019
作る人と使う人の交流会
入場無料
入退場自由

大阪開催 令和元年 12/17(金)~18(土)
11:00-17:00 / 10:00-16:00 大阪マーチャンダイズマート2F Aホール

福岡開催 令和2年 1/14(金)~15(土)
11:00-17:00 / 10:00-16:00 福岡国際会議場2F 多目的ホール

東京開催 令和2年 2/12(水)~13(木)
11:00-17:00 / 10:00-16:00 TOC有明4F コンベンションホール

トピックス / 基調講演 (80分)

大阪開催 12/17(金) 11:10~ 兵庫県立福祉のまちづくり研究所が考える役に立つモノづくりと開発事例 藤 隆明氏 社会福祉法人 兵庫福祉社会福祉事業団 総合リハビリテーションセンター 所長	福岡開催 1/14(金) 11:10~ パラリンピックと義肢装具の世界 臼井 二美男氏 公益財団法人 義肢装具協会 義肢装具サポートセンター 義肢装具研究部長 義肢装具士	東京開催 2/13(木) 10:10~ サイバニクスで障害者の未来を拓く 山海 嘉之氏 筑波大学システム情報系 サイバニクス研究センター 教授 研究統括 CYBERDYNE株式会社 代表取締役 / CEO
--	--	---

公益財団法人テクノエイド協会 The Association for Technical Aids(ATA)
厚生労働省
本事業は「令和元年産シース・ニーズマッチング強化事業」の一環として行われます。
詳しくはテクノエイド協会 交流会専用サイトまで <http://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/index.shtml>

【公式パンフレット】

公式パンフレット
障害者自立支援機器
シーズ・ニーズマッチング
交流会2019
作る人と使う人の交流会
入場無料
入退場自由

大阪開催 令和元年 12/17(金)~18(土) 11:00-17:00 / 10:00-16:00 大阪マーチャンダイズマート 2F Aホール	福岡開催 令和2年 1/14(金)~15(土) 11:00-17:00 / 10:00-16:00 福岡国際会議場 2F 多目的ホール	東京開催 令和2年 2/12(水)~13(木) 11:00-17:00 / 10:00-16:00 TOC有明 4F コンベンションホール
---	--	--

基調講演 (80分) トピックス!

大阪会場 12/17(金) 11:10~	兵庫県立福祉のまちづくり研究所が考える役に立つモノづくりと開発事例 藤 隆明氏
福岡会場 1/14(金) 11:10~	パラリンピックと義肢装具の世界 臼井 二美男氏
東京会場 2/13(木) 10:10~	サイバニクスで障害者の未来を拓く 山海 嘉之氏

公益財団法人テクノエイド協会 The Association for Technical Aids(ATA)
厚生労働省
本事業は「令和元年産シース・ニーズマッチング強化事業」の一環として行われます。
詳しくはテクノエイド協会 交流会専用サイトまで <http://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/index.shtml>

(4) シーズ・ニーズマッチング交流会の開催結果

各会場で行った主な併催イベントは以下のとおりである。

各会場の主な併催イベント（日程・内容）

会場	日時・開催内容
大阪会場	日時：令和元年12月17日（火）～18日（水）
	場所：OMM（大阪マーチャндаイズマート）2階Aホール
	○基調講演「兵庫県立福祉のまちづくり研究所が考える役に立つモノづくりと開発事例」
	○活動報告
	○開発及び利用報告
	○特別講演「臨床現場の観察から始める支援機器開発」
	○ワークショップ「ニーズの探索、深掘りの重要性を理解する～医療福祉の現場のストーリーからニーズを見つけ出そう～」

会場	日時・開催内容
福岡会場	日時：令和2年1月14日（火）～15日（水）
	場所：福岡国際会議場ホール 2F多目的ホール
	○基調講演「パラリンピックと義肢装具の世界」
	○活動報告
	○開発及び利用報告
	○ワークショップ「体験広場～最新の機器を使ってみよう～」

会場	日時・開催内容
東京会場	日時：令和2年2月12日（水）～13日（木）
	場所：TOC有明 4階コンベンションホール
	○基調講演「サイバニクスで障害者の未来を拓く」
	○令和元年度 障害者自立支援機器等開発促進事業 成果報告会
	○活動報告
	○開発及び利用報告
	○ワークショップ「きつず広場～子ども向け機器展示・体験～」 「強化段ボールで作るテクノエイド」

①基調講演

○大阪会場

【開催日】令和元年12月17日（火）11：10～12：30

【講演者】社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団 総合リハビリテーションセンター 所長 陳 隆明 氏

【題目】「兵庫県立福祉のまちづくり研究所が考える役に立つモノづくりと開発事例」

○福岡会場

【開催日】令和2年1月14日（火）11：10～12：30

【講演者】公益財団法人鉄道弘済会 義肢装具サポートセンター
義肢装具研究室長 臼井 二美男 氏
【題目】「パラリンピックと義肢装具の世界」

○東京会場

【開催日】令和2年2月13日（木）10：10～11：30
【講演者】筑波大学システム情報系・サイバニクス研究センター教授・研究統括
CYBERDYNE株式会社 代表取締役／CEO 山海 嘉之 氏
【題目】「サイバニクスで障害者の未来を拓く」

<基調講演の様子>



②支援機器の利活用事例報告

○【大阪会場】

12月17日(火曜日)

13:30	活動報告 [各40分]	
13:30	1 石川県における支援機器を用いた自立支援の取り組み ～自立支援機器普及アンテナ事業の活用～ 石川県リハビリテーションセンター	寺田 佳世氏
14:10	2 一人ひとりの自助具製作 NPO法人自助具の部屋	岡田 英志氏

○【福岡会場】

1月14日(火曜日)

13:30	活動報告 [各40分]	
13:30	1 子ども達の笑顔のための個別支援から商品化 北九州市立総合療育センター	中村 詩子氏
14:10	2 工学的支援の実例と福祉機器の商品化の難しさ 独立行政法人労働者健康安全機構	総合せき損センター 小林 博光氏

○【東京会場】

2月12日(水曜日)

13:30	活動報告 [各40分]	
13:30	1 チェアスキーに込めた思い 神奈川県総合リハビリテーションセンター	沖川 悦三氏
14:10	2 機器開発におけるエンジニアと医療職の関わり 社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団	本田 雄一郎氏

<活動報告の様子>



③支援機器の開発及び利用報告

○【大阪会場】

12月18日(水曜日)

10:10		開発及び利用報告 [各30分]	
10:10	①	ものタグアプリ:公的空間に配置されたICタグによる情報伝達網 株式会社コネクトドット	星野 寛氏
10:40	②	コミュニケーション支援機器の活用における言語聴覚士の役割 一般社団法人日本言語聴覚士協会	内山 量史氏
11:10	③	視覚障害者の単独歩行を実現するチャレンジ 舞鶴工業高等専門学校 電気情報工学科	片山 英昭氏

○【福岡会場】

1月15日(水曜日)

10:10		開発及び利用報告 [各30分]	
10:10	①	使う人の声を聴いたらヒット作誕生!!弱視児用書見台 京 自助具館	近藤 千津子氏
10:40	②	だっこ式移乗介護ロボットの紹介 マッスル株式会社	井川 大造氏
11:10	③	視覚障害者のスマートフォン利用を考える 株式会社インハウスDS	高岡 健吾氏
11:40	④	自分の声を再現するソフトウェア「ボイスター」とその利用事例のご紹介 株式会社ヒューマンテクノシステム東京	渡辺 聡氏
12:10	⑤	バス用ヒアリングループで「聞こえ」の保障 株式会社ソナール	緒方 正平氏

○【東京会場】

2月12日(水曜日)

WEST 会場

11:10		開発及び利用報告 [各30分]	
11:10	①	がん検診の「言葉の壁」をITで打破! ~聴覚障がい者向けX線検査支援システム~ 株式会社アイエスゲート	宮田 充氏
11:40	②	「ロボスネイルOVER」の開発 リョーエイ株式会社	平野 卓哉氏

<開発及び利用報告の様子>



④ワークショップ（大阪会場）

障害者の支援機器の開発にあたっては、障害者のニーズは多種・多様で個別性が高いとされており、ニーズを持つ本人はもとより、支援者の家族や医療福祉関係者のニーズも重要とされている。真のニーズを踏まえた支援機器の開発は難しく、シーズ志向の開発により、シーズオリエンテッドに陥りがちであり、必ずしも利用者のニーズを組み取った機器開発につながらない場合がある。

こういった背景を踏まえ、医療機器開発等で実績がある、スタンフォード大学で始まったデザイン思考を用いたニーズ発掘手法を元に、ニーズの着想、探索、深掘りまでの一連のプロセスについて学ぶワークショップを行った。

○テーマ：「ニーズの探索、深掘りの重要性を理解する～医療福祉の現場のストーリーからニーズを見つけ出そう～」

○目的：1. ニーズを深く掘り、磨くプロセスの体験
2. “ユーザーのストーリー”を理解する

○プログラム：

12月18日(水曜日)

11:40	特別講演 [30分]
11:40	「臨床現場の観察から始める支援機器開発」
12:10	株式会社マリ 代表取締役 ジャパンバイオデザイン ファカルティ 瀧 宏文氏
	昼休憩/会場設営
13:00	WORKSHOP 「ニーズの探索、深掘りの重要性を理解する ～医療福祉の現場のストーリーからニーズを見つけ出そう～」 事前申し込み
	●ニーズのドラフトを作成 ●患者のストーリーを理解 ●ニーズの深掘り
15:00	株式会社ライフトゥデイ 代表取締役(医師) 原 陽介氏

○ファシリテーター：

氏名	役職名
東 祐二	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 障害工学研究部
瀧 宏文	株式会社マリ
原 陽介	株式会社ライフトゥデイ
奥村 成皓	株式会社マリ
梶山 愛	東北大学大学院医工学研究科

○実施方法：

ワークショップの募集は事前申込とし、グループの編成を行うため、職種、経験年数などの情報を予め確認することとした。

受講者にはワークショップ参加前にワークショップを行う上でのバイオデザインプログラムの基本的な考え方やワークショップのイメージについて、特別講演「臨床現場の観察から始める支援機器開発」の聴講を必須とし、聴講後、本ワークショップに参加していただくこととした。

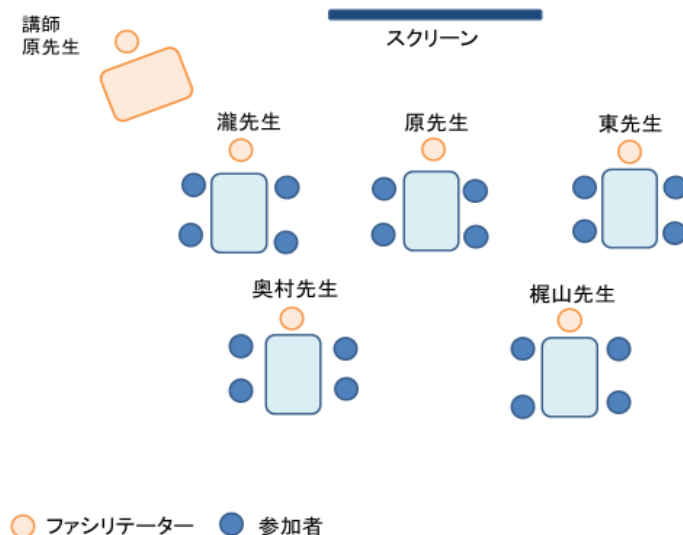
ワークショップを行うグループは、AグループからEグループの5グループとし、1グループあたり4名から5名の受講者とし、職種や経験年数等を考慮してグループ構成を行った。また、1グループに1名のファシリテーターを配置し、ワークショップが円滑に進むよう、課題の進行状況管理や疑問点など適宜アドバイスを行うこととした。

<実施スケジュール>

時間	内容	備考
13:00 - 13:15	受講生受付	受付
13:15 - 13:20	イントロ (5)	ワークショップの全体説明・自己紹介 本ワークショップの到達目標を伝える。 ファシリテーターと参加者の自己紹介
13:20 - 13:35	講義1 (15)	イントロ講義、現場観察文の提示 ニーズについて理解する。臨床現場観察の文章を説明しワークの指示を出す。
13:35 - 13:50	ワーク1 (15)	ニーズの作成 観察文を元に参加者個人でまずはニーズを考えて作ってみる。
13:50 - 14:00	発表1 (10)	ワーク1のグループ内発表 グループ内で発表して共有したり、フィードバックをしたりする。
14:00 - 14:20	講義2 (20)	"ニーズ" "ユーザーストーリー"について 医学情報を理解し、ニーズを作るための方法として、患者フローを解説する。
14:20 - 14:45	ワーク2 (20)	"ユーザーストーリー"の作成とニーズの深掘り 患者フローをグループ毎に作成し、先に作成したニーズと比較してみる。
14:45 - 14:55	発表2 (10)	ワーク2の全体発表、および気づきの共有 ワーク1と2を経験して、作成したニーズと気づきを全体で共有する。
14:55 - 15:00	講義 (5)	Wrap UpとQ&A ワークショップの目標を改めて説明してラップアップする。

<グループ座席表>

座席表



○実施結果：

ワークショップの参加者は21名であり、エンジニアや医療関係従事者、行政等様々な職種の人が参加した。

ユーザーのストーリーを元にニーズの深掘りを各グループで行い、ニーズと気づきを全体発表することとした。

<ワークショップの様子>



○ニーズの探索、深掘りの重要性を理解するワークショップの感想：

- ・ 開発の前のニーズの探索が重要であること。複数名で行うことの有効性が分かった。(開発メーカー)
- ・ 参加者の立場によって同じ事象に対する考え方が違うところが面白かった。(開発メーカー)
- ・ ニーズに基づく開発という視点を見直すことができた。(開発メーカー)
- ・ 誰が使用するニーズなのかをはっきりさせること、どのようなターゲットなのかを明確化することが重要であると感じた。(研究機関)
- ・ シーズとシーズのマッチングの難しさを学べた。(開発メーカー)
- ・ ニーズを深掘りする際のフレームワークを学べた。(研究機関)
- ・ ニーズとウォンツの違いが分かりやすかった。(医療関係者)
- ・ ニーズの深掘りの仕方、ニーズを言語化することの重要性及び言語化する方法について学べた。(行政)
- ・ ニーズを探る手順、医療職とメーカーが共通の場で話を深めることの重要性を理解できた。(共通言語を持つこと、出会いの場を持つこと)(医療関係者)
- ・ 「誰のために」がよくわかった。(開発メーカー)
- ・ 福祉機器の開発にあたり、研究開発要素だけにフォーカスしたのとなってしまう、ニーズが集約できていないために良いものが生まれにくいということを感じていたので、ワークショップを通じてその機会を知るよききっかけになった。(行政)
- ・ ニーズの整理の導き方について学べて大変良かった。(研究機関)
- ・ ユーザーの意思決定には複数の関係者が関わっているためハードルが高いが、ニーズを絞り込めば様々な視点からニーズを作れる可能性があることを学べた。(その他、介護実習・普及センター) 等

⑤ワークショップ（東京会場）

小児向けの移動支援機器体験・機器展示を行う傍ら、リハビリテーション施設等に所属する医療福祉従事者や特別支援学校教員等を対象とした「強化段ボールを用いた幼児向けの座位保持椅子」を作成するワークショップを行った。

○テーマ：「～子ども向け機器展示・体験～ 強化段ボールで作るテクノエイド」

○目的：強化段ボールを使って、幼児用の座位保持椅子を作成する

○プログラム：

2月13日(木曜日)

WEST 会場

13:30

WORKSHOP

きつず広場 ～ 子ども向け機器展示・体験 ～



- 強化段ボールで作るテクノエイド
東洋大学ライフデザイン学部
人間環境デザイン学科
繁成 剛氏

- Baby Loco
株式会社今仙技術研究所

事前申し込み



15:00

○結果：

ワークショップの参加者は5名であり、リハビリテーションセンター所属のエンジニア、医療福祉関係従事者、特別支援学校の教員の方々が参加した。

<ワークショップの様子>



○強化段ボールで作るテクノエイドのワークショップの感想：

- ・ 今後は自助具作りのワークショップも体験したい。(医療関係者)
- ・ 今後は自助具作りのワークショップデザインメイン、3Dプリンタ製作メイン、アイデアソン等を体験したい。(介護実習・普及センター)
- ・ 実際に製作体験ができ、意外と力が必要なことなどが分かり、大変勉強になった。次年度、弊所でも強化段ボールを使った企画を行いたい。(介護実習・普及センター)
- ・ 今回のような、そのまま実践で使えるようなものを作るワークショップを希望したい。(学校・教育関係)
- ・ とても参考になった。(医療関係者)
- ・ 障害者では既製品で対応できないこともあるため、今回のような製作実習があると良い。例として、自助具製作、矢崎パイプでの製作、災害時に役立つこと、アルテク等。(行政)
- ・ 定員は10名でなく、これくらいの人数でちょうどよく実習ができた。(行政) 等

⑥令和元年度 障害者自立支援機器等開発促進事業成果報告（東京会場）

厚生労働省にて実施している、令和元年度障害者自立支援機器開発促進事業に採択された9企業・団体による成果報告を行った。

○プログラム

1 日目		2月12日(水曜日)	EAST 会場
成果報告会			
11:15	11:15	① 障害児の日常生活において両手協調動作を促す訓練用の筋電義手と自助具	社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団
	11:30	② 在宅向け排泄支援装置	シェルエレクトロニクス株式会社
	11:45	③ 義足装着者の生活環境に合わせ、履物にマッチした足関節角度を自動調整する義足足部の実用化への開発	株式会社金久保製作所
	12:00	④ ALS、脳梗塞患者等肢体不自由者に向けた電子文字盤の開発	株式会社デジタルリーフ
	12:15	⑤ 視覚障害者のIoT化と情報共有クラウドによる移動支援システムの開発	株式会社コンピュータサイエンス研究所
昼休憩			
	13:15	⑥ 障害者の能動的な運動・活動を促すコンピューターグラフィックを利用したレクリエーションエクササイズの開発	藤田医科大学
	13:30	⑦ 在宅で使用可能な非装着型体幹トレーニング支援機器の開発	CYBERDYNE株式会社
	13:45	⑧ 低年齢児向けの移動支援機器開発	株式会社今仙技術研究所
	14:00	⑨ 没入型VRによる視空間認知障害者のためのADL自立促進システム	株式会社システムネットワーク

(5) A T A サテライト (意見交換会) の実施結果

① 開催のねらい、目的

障害者福祉の現場において、真に必要とされる支援機器を開発するためには、着想の段階からユーザーや支援者のニーズと開発や研究者等のシーズをマッチングすることが大切であり、シーズ志向型の開発とならないよう、各種障害者の置かれている状態は勿論のこと、現場の課題やニーズを的確に捉えた支援機器の開発に繋げる取り組みが重要である。

こうしたなか当協会では、シーズ・ニーズマッチング交流会への来場が容易ではない地域に出向き、支援機器に係わる地域の関係者が集う「A T A サテライト (意見交換会)」を開催することとした。

「A T A サテライト」では、当該地域の支援機器に関する有識者と障害者及びその介護者をはじめ、産業振興団体や開発企業等が集い、今後開発が必要な障害者の自立支援機器の具体的なイメージを検討することとし、開発促進事業の提案テーマに繋げることとした。

※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者 等
※シーズ側：開発メーカー、地域の産業振興団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関 等

○実施方法

各開催地で核となる福祉機器に関する有識者を選考し、意見交換会のとりまとめ役を務めていただくこととした。

参加は、原則、地元の支援機器に携わる有識者、ニーズ側及びシーズ側はもとより、開催地の福祉課及び産業振興課、大学や研究機関等へ呼び掛けた。

開催地ごとに検討テーマを決定し、各会場で2回の意見交換会を開催した。第2回目の意見交換会では、最終的に課題解決に向けた具体的な支援機器のイメージについて議論をし、2月12日・13日で行われる東京会場の交流会にて、各会場の成果を1点パネル展示することとした。

また、交流会後は、協会ホームページにも掲載し、提案内容の開発を喚起することとした。

○開催地域の有識者

- ・ A T A サテライト北海道 中村健治 (北海道社会福祉協議会)
竹澤 聡 (北海道科学大学)
- ・ A T A サテライト高知 坊岡正之 (結人の紬・元広島国際大学)
北岡 剛 (株式会社テクノクラフト高知)
- ・ A T A サテライト佐賀 松尾清美 (K T 福祉環境研究所・元佐賀大学)
秀島圭和 (佐賀大学大学院医学系研究科)

○参加者の募集

交流会専用HPにA T A サテライト開催の案内を掲載し、開催地の有識者の方々より、開発企業や障害当事者の呼びかけを行った。

また、直接、地域の県・市及び障害当事者団体や大学等にも周知を行った。

○スケジュールと検討事項等

時期		検討事項等
第1回	10月	※現場の見学 ①目的の共有化 ②自己紹介 ③障害者の置かれている状況の把握 当事者・家族等の困りごと、あって欲しい機器・システム ④課題解決に向けた機器開発の検討 既存の技術等を活用した機器開発のイメージ
第2回	12月 1月	⑤課題解決に向けた具体的な支援機器のイメージ（案）作成 ・想定するユーザー ・解決すべきニーズ ・満たすべき仕様・機能 等
2月12日（水） 2月13日（木）		シーズ・ニーズマッチング交流会（東京会場）において パネル等による成果報告

○成果のアウトプット様式（例）

各会場における成果のアウトプット様式に関しては以下の様式に取りまとめることとした。

タイトル * * * * * 想定するユーザー * * * * * * * * * *	解決すべきニーズ *
機器やシステムのイメージ * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	満たすべき仕様・機能 * * * * * * * * * * * * * * * * * * *
A T A サテライト参加者 ※参加者によっては公表しない *	

②参加メンバー等

各会場の開催日とメンバーの所属は以下のとおりである。

高知 A T A サテライト	
<u>検討テーマ</u> 「南海トラフなど災害時の対応、コミュニケーション機器 他」	
<u>日時・会場</u> 会場：高知県立ふくし交流プラザ 第1回 令和元年10月11日（金）13：30～16：00 第2回 令和元年12月20日（金）13：30～16：00	
<u>参加者所属</u> (順不同)	
<ul style="list-style-type: none">・ N P O 法人結人の袖 就労移行支援事業所 Sai 就労継続支援B型事業所 Ren・ 株式会社テクノクラフト高知・ 公益財団法人高知県身体障害者連合会・ 医療法人旦龍会 町田病院・ 関 株式会社・ 株式会社ジェイテクト	<ul style="list-style-type: none">・ 社会福祉法人土佐厚生会障害者支援施設 こくふ相談支援センター アルペジオ・ 医療法人五月会 須崎くろしお病院・ 脳卒中リハビリ研究所・ 合同会社K T福祉環境研究所・ 当事者の方々 他

佐賀 A T A サテライト	
<u>検討テーマ</u> 「特別支援学校における支援機器」	
<u>日時・会場</u> 会場：佐賀県在宅生活サポートセンター 第1回 令和元年10月23日（水）10：00～12：00 第2回 令和元年12月10日（火）10：00～12：00	
<u>参加者所属</u> (順不同)	
<ul style="list-style-type: none">・ 合同会社 K T福祉環境研究所・ N P O 法人障害者自立就労支援メッセ ージ 花くじら・ EBM トレーディングジャパン株式会社・ 株式会社シマブン・ 株式会社アテックス・ たかだ電動機株式会社・ H I R O E・ 有限会社であい工房・ 株式会社今仙技術研究所	<ul style="list-style-type: none">・ 一般社団法人こうしゅくゼロ推進協議会・ 独立行政法人労働者健康安全機構総合せ き損センター・ 佐賀県工業技術センター・ 大分県社会福祉介護研修センター・ 金立特別支援学校・ 宮崎せいりゅう支援学校・ うれしの特別支援学校・ 佐賀県立盲学校 他

北海道 A T A サテライト

検討テーマ

「福祉作業所における支援機器」

日時・会場

会場：社会福祉法人クピド・フェア

第1回 令和元年10月18日（金） 13：00～16：00

第2回 令和2年 1月20日（月） 13：00～16：00

参加者所属 (順不同)

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・北海道社会福祉協議会 ・社会福祉法人クピド・フェア ・NPO法人障害者自立就労支援
メッセージ 花くじら ・北海道経済部 産業振興局産業振興課 ・北海道医療福祉産業研究会 ・北海道科学大学 | <ul style="list-style-type: none"> ・地方独立法人北海道立総合研究機構
産業技術研究本部 ・合同会社ライフスペース研究所 ・株式会社キャリアエディション ・株式会社電制 <p style="text-align: right;">等</p> |
|--|---|

③開催結果

各会場の成果は以下のとおりである。

○高知 A T A サテライト

タイトル：お助けフラッグ（仮称）

～ みんなで考えよう支援機器の開発 ～

障害当事者の置かれている状況（課題・ニーズ）

<p>■ 想定するユーザー（状態像） マンション居住者で災害時に、避難所に避難することが困難であり在宅で支援を必要とする障害がある人たち。</p>	<p>■ 解決すべき課題・ニーズ 障害特性に応じた支援が必要となるが、それを具体的に支援者に伝える。 電気等のインフラが使用できない状態で、通信手段が無い状態においても、支援者に応援をお願いする。</p>
--	---

課題解決に向けた提案・アイデア（シーズ）

<p>■ 機器やシステムのイメージ ベランダに設置して必要とする支援を伝える。特に、視覚障害や聴覚障害に関しては、専門的な知識を有する支援者でなければ対応ができないため、お助けフラッグに障害の内容を記載することで具体的な支援の提供が可能となる。 例えば、車いすユーザーなら車椅子マーク、難聴者であれば、補聴器や耳のマークなどを入れる。そうすることで、援助する側もどいった方が支援を求めているのかが明確になる。</p>	<p>■ 満たすべき仕様・構造 “お助けフラッグ（仮称）”をベランダに設置するため、防水性等の耐候機能が、必要となる。 また、ベランダへ簡単に設置可能な機能が必要である。</p>
<p>■ 高知 A T A サテライトのメンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座長 特定非営利活動法人 結人の袖 坊岡 正之 氏 ・株式会社テクノクラフト高知 北岡 剛 氏 他 	



タイトル：ローテクとハイテクを接続する機器（仮称）

～ みんなで考えよう支援機器の開発 ～

障害当事者の置かれている状況（課題・ニーズ）

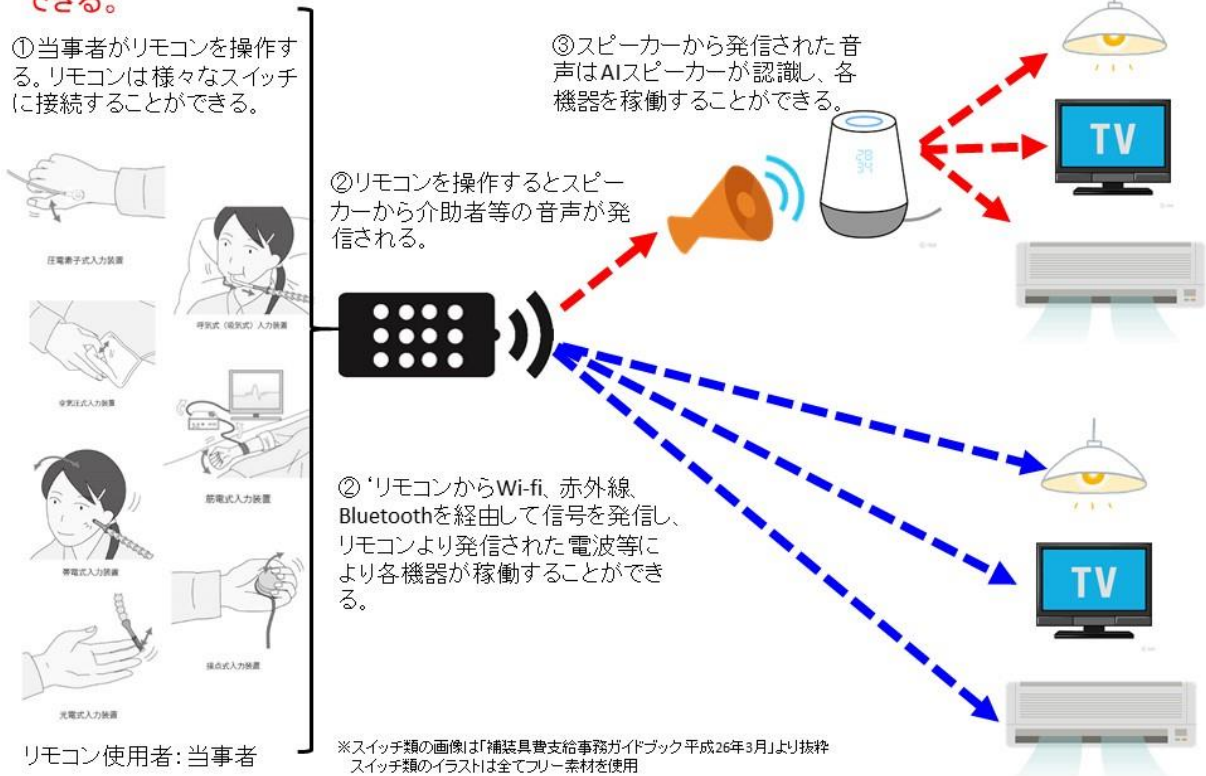
<p>■ 想定するユーザー（状態像） 視覚障害、知的障害、発達障害により、ハイテク機器を操作できないお子さんなど</p>	<p>■ 解決すべき課題・ニーズ 現在、ハイテク機器が開発されている中、視覚障害や知的障害の方はハイテク機器を扱うことが困難である。簡単なリモコン操作で、本人に代わり意思伝達ができるようなものがあると良い。</p>
--	---

課題解決に向けた提案・アイデア（シーズ）

<p>■ 機器やシステムのイメージ ・TVのリモコンを簡素化したイメージでいくつかのボタンが配置されている。 ・ボタンを押すと登録されているハイテク機器に伝達が行き、支援者がいなくてもハイテク機器を動かすことができる。 ・例えば、手元のリモコンを押せば支援者の音声が出力され、音声を認識したAIスピーカーと連動し、照明や扇風機のオンオフなどが可能となる。他には、リモコンを押すだけで携帯端末とリンクし、アプリが起動するなど。</p>	<p>■ 満たすべき仕様・構造 ・リモコンはシンプルな仕様となっており、ボタンは10個から15個を想定。 ・リモコンは衝撃に強く、防塵防水の仕様となっていることが理想である。 ・Wi-Fiなどで様々なハイテク機器とリンクされること。 ・リモコンのボタンを操作できない場合には、様々なスイッチ類との接続が可能であり、スイッチを通してリモコンを操作できる。 ・リモコンからもダイレクトで機器にアクセスできると良い。</p>
<p>■ 佐賀A T Aサテライトのメンバー ・座長 合同会社KT福祉環境研究所 松尾 清美 氏 ・金立特別支援学校 秀島 圭和 氏 ・総合せき損センター 江原 喜人 氏 ・テクノイド協会 企画部 他</p>	

支援機器のイメージ

リモコンは音声にてAIスピーカーと連動することもでき、ダイレクトで各機器を稼働させることもできる。



○北海道ATAサテライト

タイトル：冬の屋外で安全に使える杖先ゴム（仮称）

～ みんなで考えよう支援機器の開発 ～

障害当事者の置かれている状況（課題・ニーズ）

■想定するユーザー（状態像）

障害や高齢により杖を必要とする方は冬道では杖先に金属製の爪を接地面に配置する滑り止め装置（アイスピック:図1）を使用している。雪のない舗装路や屋内では金属部分が接地するため滑り、床を傷つけるため、折りたたんだり、収納することが必要。アイスピック不要な滑りにくい杖先ゴムがあると有用。

■解決すべき課題・ニーズ

現状の杖先ゴムでは圧雪路、凍結路面、屋内など冬期間の多様な路面に対応できない。このためアイスピックなど装着が必要。多様な路面（図2-1, 2-2）に特別な操作無しで対応できる杖先があると有用。

課題解決に向けた提案・アイデア（シーズ）

■機器やシステムのイメージ

- ①既存の首振り式杖先ゴムの接地面がスタッドレスタイヤや冬用靴底のような素材と表面加工がされている。（図3）
- ②杖先に滑り止め工夫がされているのは同じだが荷重により接地面積を拡げられるソフトテニスのボールのような変形をする杖先ゴムだと杖のつく角度が大きく変化しても対応できさらに有効と思われる。（図4）

■満たすべき仕様・構造

- ①ゴム接地面は発泡ゴムやグラスファイバー配合などでアイスバーンや圧雪路面でも滑りにくいもの。ある程度杖直径より大きな円型（40mmΦ程度）で接地面積を大きくし、杖と地面との角度変化に首振りで追従する。
- ②接地面は①と同じ構造、形状は球状で変形しやすい。接地面に追従するように変形する。球と杖を接合する部分はある程度剛性があり球が転がる力で杖先から逸脱しない。

■北海道ATAサテライトのメンバー

- ・座長 北海道社会福祉協議会 中村 健治 氏
- ・社会福祉法人クビド・フェア 他

The Association for Technical Aids(ATA)

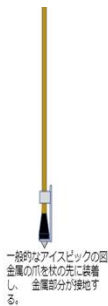


図1



札幌市内中心部 圧雪、アイスバーン、ロードヒーティングによる乾燥路面がランダムに現れる。

図2-1



札幌市内郊外ショッピングモール前交差点 歩道は圧雪だが交差点はアイスバーンの上に細かな雪

図2-2



江別市、病院前交差点、圧雪とアイスバーン交互

開発案1 従来の杖先の接地面のみ開発



参考 株式会社幸和製作所製 TacaoF

図3

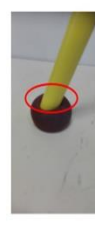
メリット 接地面材質、形状が開発できれば他の部分は既存技術を利用できる。



無荷重時



荷重時変形し接地面が増大、斜めに杖をついても接地面が大きい



メリット 既存の杖先ゴムより接地面が大きく出来る。路面の凸凹や杖のつく角度に関わらず接地面積を確保できるため不安定になりにくい。



球の上側は固くしないと斜めに杖をついた時に変形してズレてしまう。

図4

<高知 A T A サテライトの様子>



<佐賀 A T A サテライトの様子>



<交流会（東京会場）パネル展示風景>



④成果物の周知

交流会の専用HPに会場の成果物を掲載することとし、開発を喚起するとともに地域のサテライトに繋ぐこととした。

<専用HPによる成果の周知>

- 【目的】** 交流会への参加が容易ではない地域に出向き、支援機器に係る地域の関係者が集う「ATAサテライト」を開催した。ATAサテライトでは、当該地域の支援機器に関する有識者、障害者とその介護者をはじめ、産業界団体や開発企業等が集い、障害者が置かれている現状を共有化し、かつ技術進歩の動向を踏まえて、課題解決に向けた具体的な支援機器のイメージを提案する。
- 【対象】** 障害者及び家族、支援者、開発・研究機関、福祉機器に係る有識者、福祉医療関係者等
- 【第1回】** 目的の共有化、自己紹介、お困り事や課題、あってほしいシステム
- 【第2回】** 課題解決に向けた機器のイメージ、想定ユーザー、解決すべきニーズ、満たすべき仕様・機能

○高知ATAサテライト

検討テーマ
「南海トラフなど災害時の対応、コミュニケーション機器 他」

日時・会場
会場：高知県ふくし交流ぶらざ
第1回 令和元年10月11日（金）
第2回 令和元年12月20日（月）

参加者所属 （順不同）

- ・NPO法人結人の軸
- ・株式会社テクノクラフト高知
- ・公益財団法人高知県身体障害者達合会
- ・医療法人日能会 町田病院
- ・関 株式会社
- ・株式会社ジェイテクト
- ・社会福祉法人土佐厚生会障害者支援施設 こくぶ相談支援センター アルベシオ
- ・医療法人五月会 須崎くろしお病院
- ・脳卒中リハビリ研究所
- ・NPO法人結人結人の軸 就労移行支援事業所 Sai
- ・合同会社 KT福祉環境研究所
- ・障害当事者の方々

○佐賀ATAサテライト

検討テーマ
「特別支援学校における支援機器」

日時・会場
会場：佐賀県在宅生活サポートセンター
第1回 令和元年10月23日（水）
第2回 令和元年12月20日（火）

参加者所属 （順不同）

- ・合同会社 KT福祉環境研究所
- ・NPO法人障害者自立就労支援メッセージ 花くじら
- ・EBMトレーディングジャパン株式会社
- ・株式会社シマボン
- ・株式会社アテックス
- ・たかだ電動株式会社
- ・HIROE
- ・有限会社であい工房
- ・株式会社今仙技術研究所
- ・一般社団法人こうしゅくゼロ推進協議会
- ・独立行政法人労働者健康安全機構総合せき損センター
- ・佐賀県 工業技術センター
- ・大分県社会福祉介護研修センター
- ・近隣の特別支援学校の先生、ご父兄の皆様

○北海道ATAサテライト

検討テーマ
「福祉作業所における支援機器」

日時・会場
会場：社会福祉法人クビド・フェア
第1回 令和元年10月18日（金）
第2回 令和2年 1月20日（月）

参加者所属 （順不同）

- ・北海道社会福祉協議会
- ・社会福祉法人クビド・フェア
- ・社会福祉法人クビド・フェアのスタッフの皆様
- ・北海道経済部 産業振興局産業振興課
- ・北海道医療福祉産業研究会
- ・北海道科学大学
- ・地方独立法人北海道立総合研究機構 産業技術研究本部
- ・合同会社ライフスペース研究所
- ・株式会社キャリアエディション
- ・株式会社電制

● 結果



【高知開催】



【佐賀開催】



【北海道開催】

(6) 参加人数及びアンケート結果

①出展企業等の状況（3会場）

区分	参加数
1. 令和元年度 障害者自立支援機器等開発促進事業採択企業	9 企業
2. 聴覚・視覚障害者の支援機器	17 企業
3. 肢体不自由者の支援機器	22 企業
4. 難病患者・障害児の支援機器	2 企業
5. レクリエーション・コミュニケーション支援機器	15 企業
6. ロボット・脳科学に関する支援機器	9 企業
7. 就労支援に関する支援機器	2 企業
8. 障害者の支援をより行いやすくなる支援機器	15 企業
9. その他	2 企業
10. 障害団体・開発支援団体・職能団体 他	14 団体
合 計	107 企業・団体

②参加者の状況

○会場別の出展企業等

地域	出展企業・団体
大阪会場	60 企業・団体
福岡会場	41 企業・団体
東京会場	81 企業・団体
全 体	182 企業・団体

○会場別の参加者人数

地域	出展企業・団体・一般来場者
大阪会場	345名（320）
福岡会場	166名（127）
東京会場	523名（362）
全 体	1,034名（809）

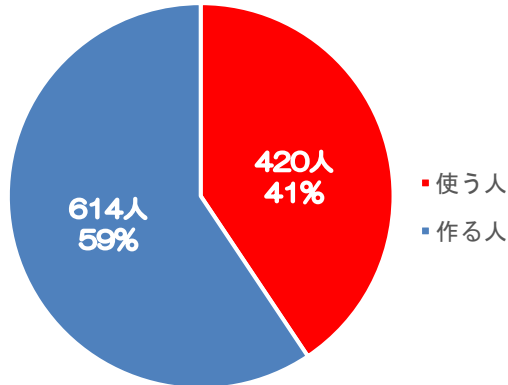
（ ）は昨年度の数をさす

○参加者の属性

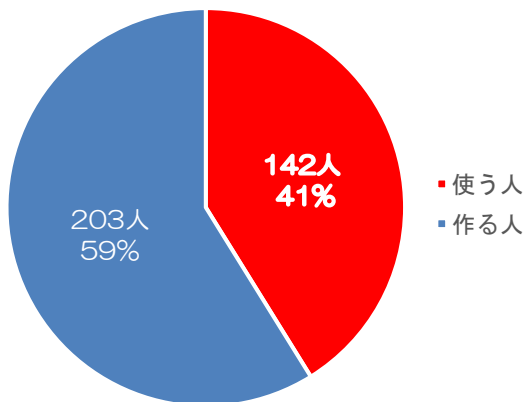
地域	使う人	作る人	出展企業・団体・一般来場者
大阪会場	142名	203名	345名
福岡会場	72名	94名	166名
東京会場	206名	317名	523名
全 体	420名	614名	1,034名

○参加者の使う人、作る人の内訳

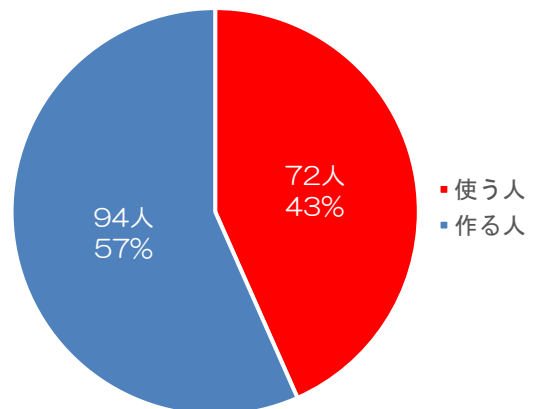
3会場開催述べ来場者数 【計1034名】



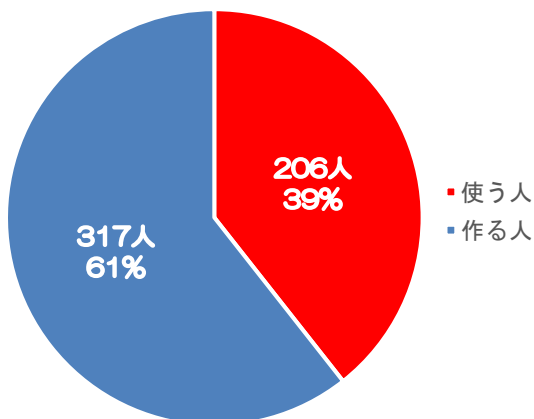
大阪会場【計345名】



福岡会場【計166名】



東京会場【計523名】

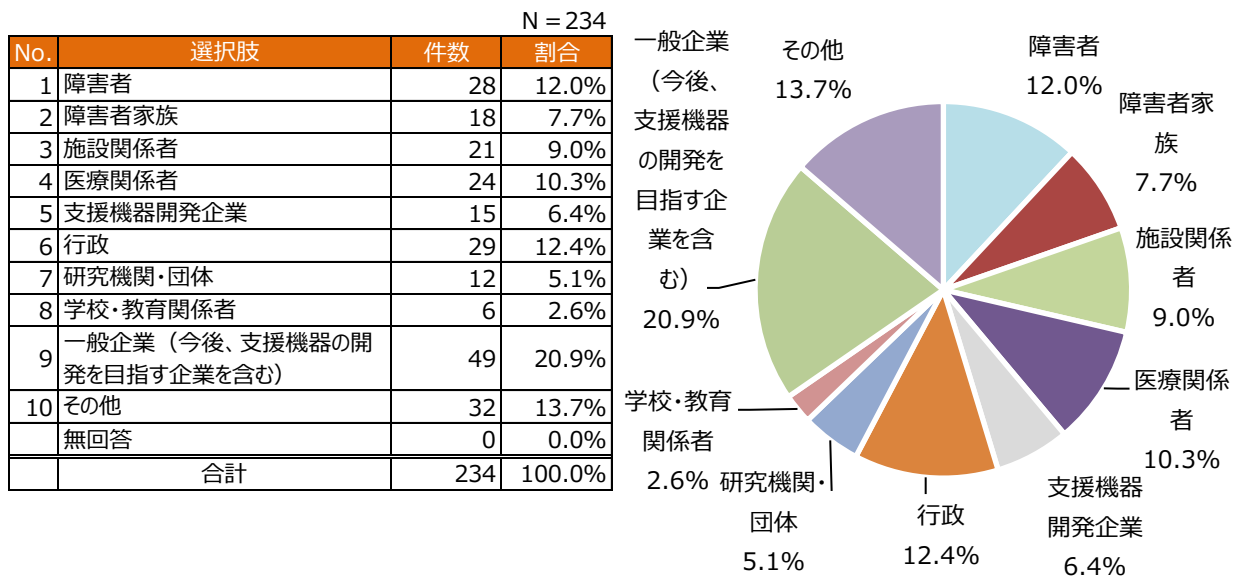


③来場者アンケート結果【3会場合計】

本交流会の一般来場者に行ったアンケート結果は、以下のとおりである。

	回答数
大阪会場	126件
福岡会場	43件
東京会場	65件
合計	234件

○来場者の属性について

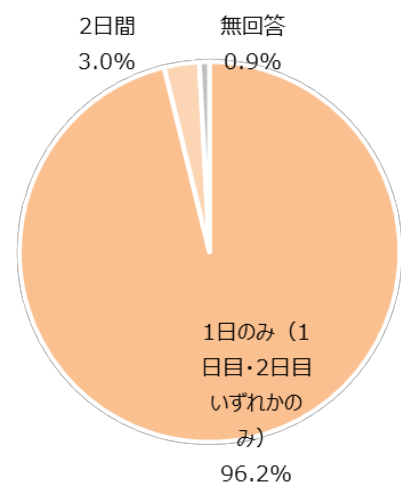


「その他」と記入された方の中には、ヘルパー、ケアマネージャー、住宅改修業者、企業支援のNPO、ALS患者の遺族、市民団体、ITサポートセンターなどがあつた。

○参加日数について

N = 234

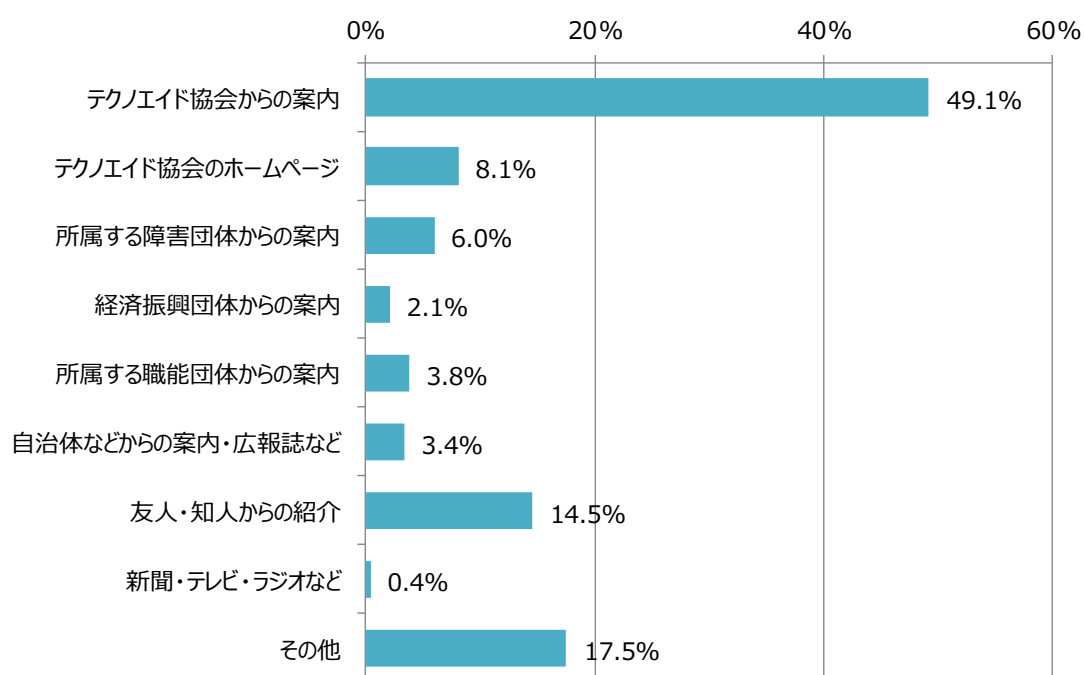
No.	選択肢	件数	割合
1	1日のみ（1日目・2日目いずれかのみ）	225	96.2%
2	2日間	7	3.0%
	無回答	2	0.9%
	合計	234	100.0%



○交流会開催の情報収集源について

N = 234

No.	選択肢	件数	割合
1	テクノエイド協会からの案内	115	49.1%
2	テクノエイド協会のホームページ	19	8.1%
3	所属する障害団体からの案内	14	6.0%
4	経済振興団体からの案内	5	2.1%
5	所属する職能団体からの案内	9	3.8%
6	自治体などからの案内・広報誌など	8	3.4%
7	友人・知人からの紹介	34	14.5%
8	新聞・テレビ・ラジオなど	1	0.4%
9	その他	41	17.5%

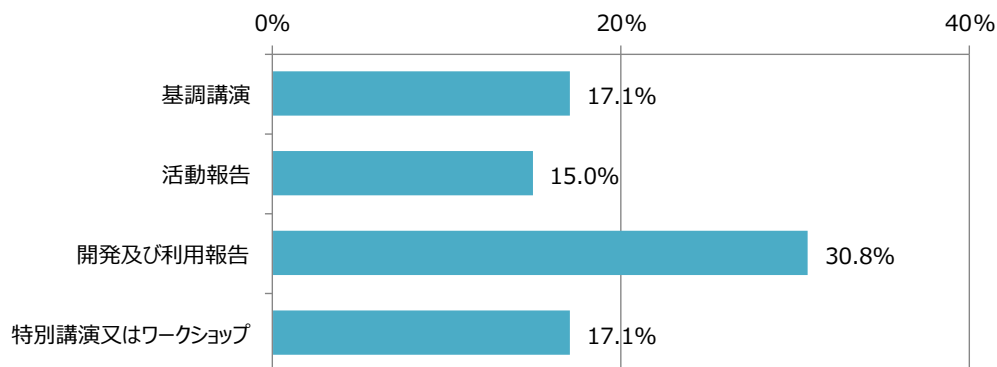


「その他」と記入された方の中には、勉強会で知った、利用者からの紹介、Face Book、開発企業からの紹介、開発企業のHPからなどがあつた。

○特に良かった併催イベント（複数回答可）

N = 234

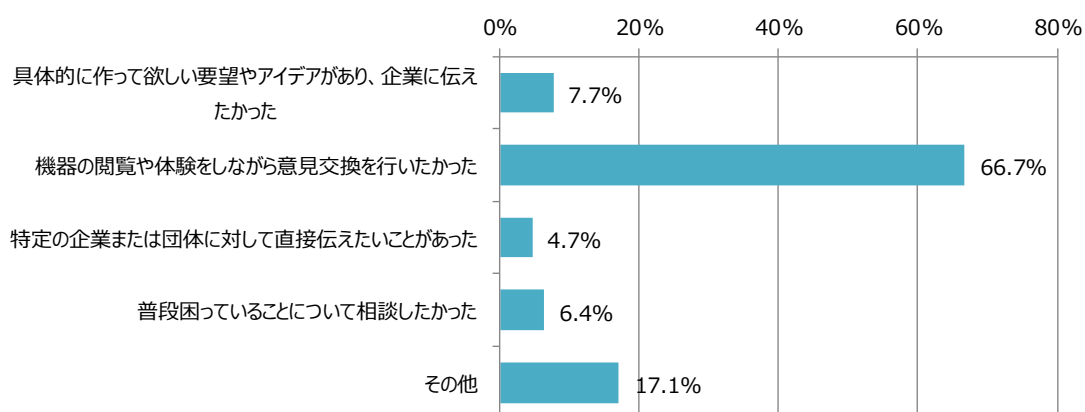
No.	選択肢	件数	割合
1	基調講演	40	17.1%
2	活動報告	35	15.0%
3	開発及び利用報告	72	30.8%
4	特別講演又はワークショップ	40	17.1%



○来場の目的について

N = 234

No.	選択肢	件数	割合
1	具体的に作って欲しい要望やアイデアがあり、企業に伝えなかった	18	7.7%
2	機器の閲覧や体験をしながら意見交換を行いたかった	156	66.7%
3	特定の企業または団体に対して直接伝えたいことがあった	11	4.7%
4	普段困っていることについて相談したかった	15	6.4%
5	その他	40	17.1%

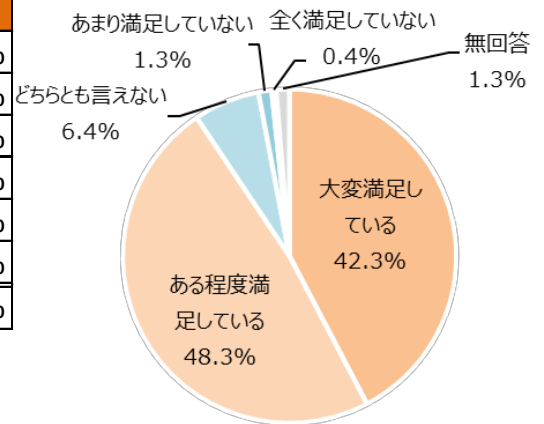


「その他」と記入された方の中には、聞きたいプレゼンがあった、情報収集、福祉用具について知りたかった、福祉に係る業務の勉強のため、相談事を受けている案件についてのヒントを得たかった、困りごとの調査、研修や最新情報などアイデアを得るためなどの意見があった。

○会場の立地や利便性について

N = 234

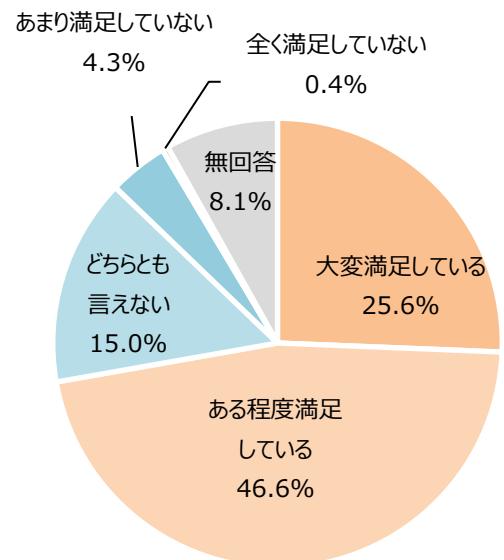
No.	選択肢	件数	割合
1	大変満足している	99	42.3%
2	ある程度満足している	113	48.3%
3	どちらとも言えない	15	6.4%
4	あまり満足していない	3	1.3%
5	全く満足していない	1	0.4%
	無回答	3	1.3%
	合計	234	100.0%



○会場の展示や配置について

N = 234

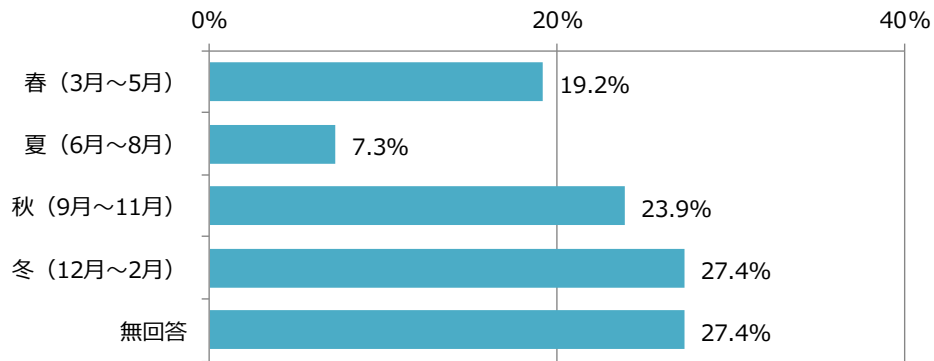
No.	選択肢	件数	割合
1	大変満足している	60	25.6%
2	ある程度満足している	109	46.6%
3	どちらとも言えない	35	15.0%
4	あまり満足していない	10	4.3%
5	全く満足していない	1	0.4%
	無回答	19	8.1%
	合計	234	100.0%



○希望する開催時期（季節）について

N = 234

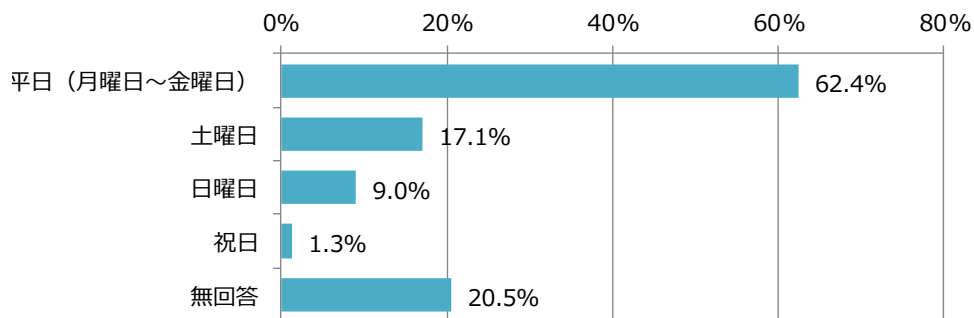
No.	選択肢	件数	割合
1	春（3月～5月）	45	19.2%
2	夏（6月～8月）	17	7.3%
3	秋（9月～11月）	56	23.9%
4	冬（12月～2月）	64	27.4%
5	無回答	64	27.4%



○希望する開催時期（曜日について）

N = 234

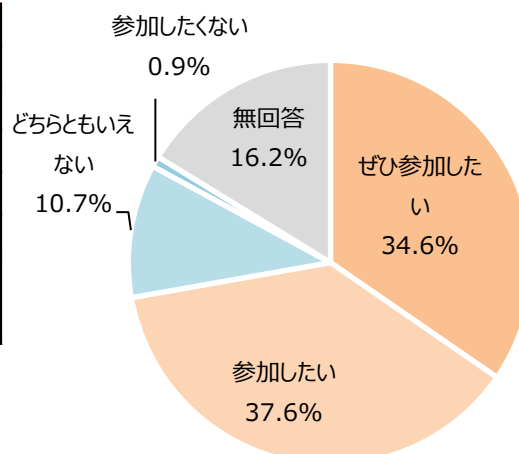
No.	選択肢	件数	割合
1	平日（月曜日～金曜日）	146	62.4%
2	土曜日	40	17.1%
3	日曜日	21	9.0%
4	祝日	3	1.3%
5	無回答	48	20.5%



○次年度の参加希望について

N = 234

No.	選択肢	件数	割合
1	ぜひ参加したい	81	34.6%
2	参加したい	88	37.6%
3	どちらともいえない	25	10.7%
4	参加したくない	2	0.9%
5	全く参加したくない	0	0.0%
	無回答	38	16.2%
	合計	234	100.0%



○主な自由記述について

①どのような交流ができたか

- ・ 最新機器の確認と質問ができた
- ・ 開発している機器（製品）について率直な質問ができた
- ・ 体験しながら説明を受けることができ、わかりやすかった
- ・ 他の患者団体同士の交流ができた
- ・ 興味のある支援機器について、詳しい内容を知ることができた
- ・ 開発のヒントをもらったり、共同開発のお話に繋がった
- ・ 当事者団体との交流が持ててよかった
- ・ 最近の自立支援機器の方向性について交流ができた
- ・ 他の業種の方と直接話すことができ、知っていることと考えていることの違いを感じた
- ・ 新しい商品の取り扱いに関する商談ができた
- ・ 開発のポイント、使う側のニーズについて詳しく知ることができた 等

②交流会に関する意見や感想、今後來てほしい企業など

- ・ 開発企業のグループともっと交流する機会を得たい
- ・ 一つ一つのブースを回ってお話を伺うことができ、理解が深まった
- ・ ブースによって異なるが、出展者が積極的に来場者に対して話しかけていただけると、来場した側は話がしやすく、充実した時間が過ごせるのではないかと
- ・ 浴室に関する機器について情報を得たかった
- ・ ワークショップは大変参考になった
- ・ 若手起業家と交流できると良いのではないかと
- ・ ロボット系の機器がもっと出展されると良い
- ・ 知られていない具体的な症例を知ってみたい
- ・ 平日の昼間の参加は難しい
- ・ 医療関係従事者ともう少し意見交換ができると良いのでは 等

④出展者アンケート結果【3会場合計】

本交流会の出展者に行ったアンケート結果は、以下のとおりである。

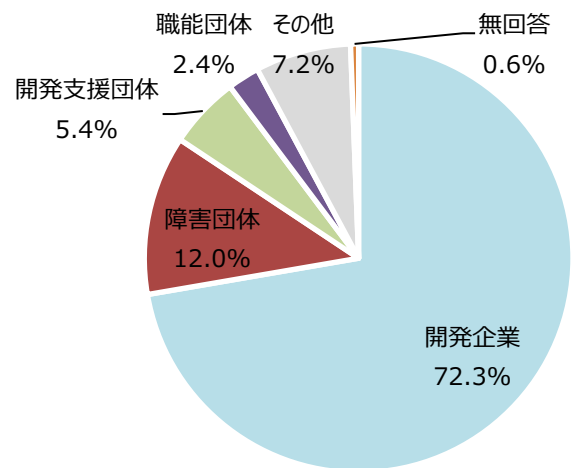
なお、166件のアンケート結果は、複数の会場に出展している企業や団体も含める。

	回答数
大阪会場	56件
福岡会場	38件
東京会場	72件
合計	166件

○アンケート回答者の基本情報について

N = 166

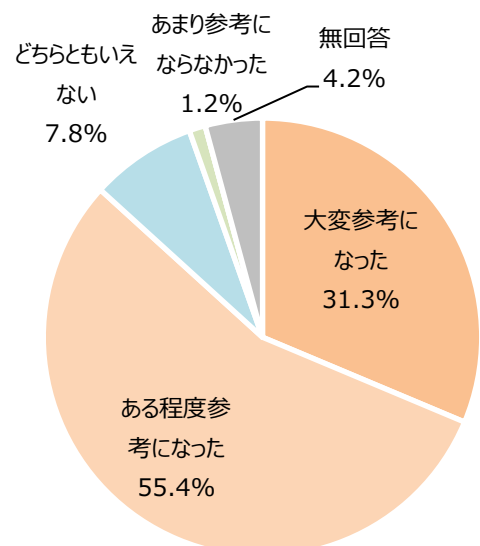
No.	選択肢	件数	割合
1	開発企業	120	72.3%
2	障害団体	20	12.0%
3	開発支援団体	9	5.4%
4	職能団体	4	2.4%
5	その他	12	7.2%
	無回答	1	0.6%
	合計	166	100.0%



○その後の機器開発や団体の活動において参考になったか

N = 166

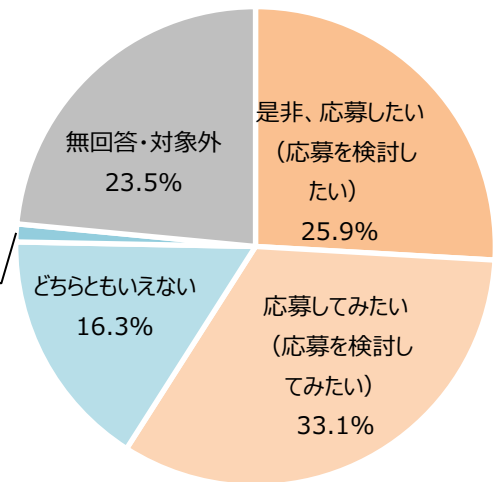
No.	選択肢	件数	割合
1	大変参考になった	52	31.3%
2	ある程度参考になった	92	55.4%
3	どちらともいえない	13	7.8%
4	あまり参考にならなかった	2	1.2%
5	全く参考にならなかった	0	0.0%
	無回答	7	4.2%
	合計	166	100.0%



○交流会の参加を通して「障害者自立支援機器等開発促進事業」に応募してみたいと思ったか

N = 166

No.	選択肢	件数	割合
1	是非、応募したい（応募を検討したい）	43	25.9%
2	応募してみたい（応募を検討してみたい）	55	33.1%
3	どちらともいえない	27	16.3%
4	補助事業に関心はない	2	1.2%
	無回答・対象外	39	23.5%
	合計	166	100.0%

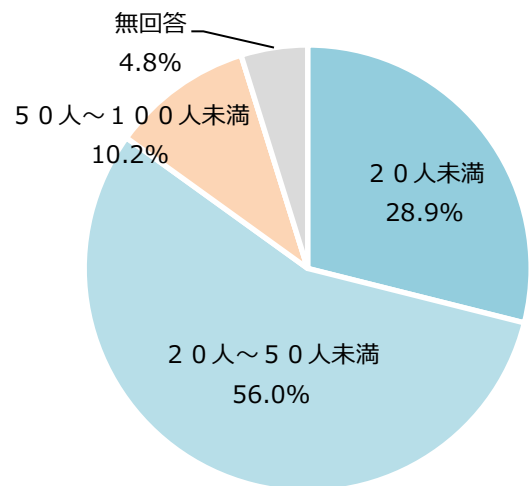


補助事業に関心
はない
1.2%

○交流を行った概ねの人数について

N = 166

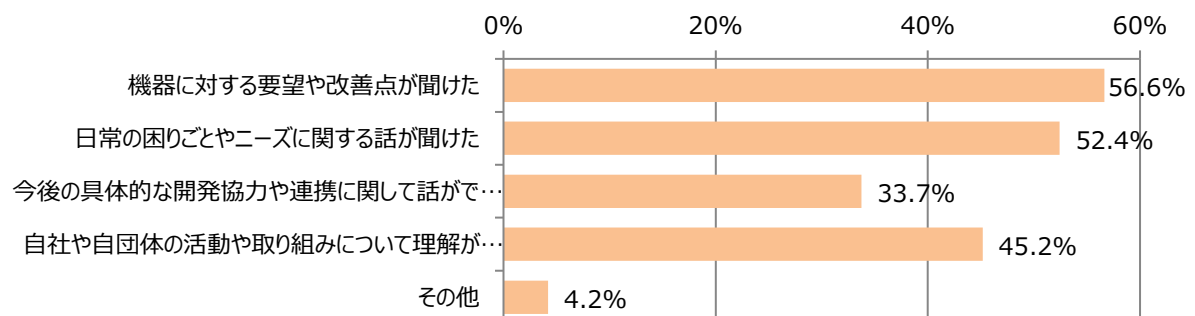
No.	選択肢	件数	割合
1	20人未満	48	28.9%
2	20人～50人未満	93	56.0%
3	50人～100人未満	17	10.2%
4	100人以上	0	0.0%
	無回答	8	4.8%
	合計	166	100.0%



○交流の具体的な内容について（複数選択可）

N = 166

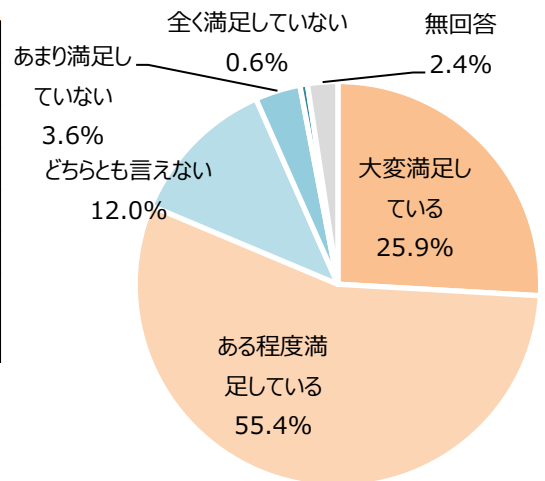
No.	選択肢	件数	割合
1	機器に対する要望や改善点が聞けた	94	56.6%
2	日常の困りごとやニーズに関する話が聞けた	87	52.4%
3	今後の具体的な開発協力や連携に関して話ができた	56	33.7%
4	自社や自団体の活動や取り組みについて理解が深められた	75	45.2%
5	その他	7	4.2%



○交流会の満足度について

N = 166

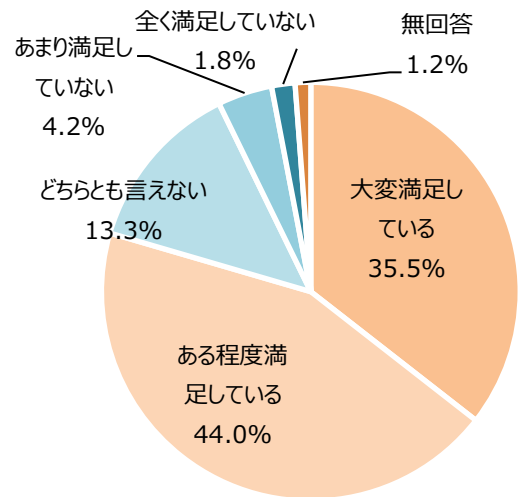
No.	選択肢	件数	割合
1	大変満足している	43	25.9%
2	ある程度満足している	92	55.4%
3	どちらとも言えない	20	12.0%
4	あまり満足していない	6	3.6%
5	全く満足していない	1	0.6%
	無回答	4	2.4%
	合計	166	100.0%



○会場の立地や利便性について

N = 166

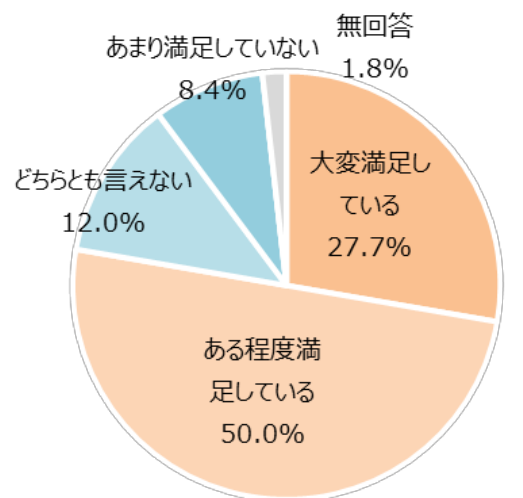
No.	選択肢	件数	割合
1	大変満足している	59	35.5%
2	ある程度満足している	73	44.0%
3	どちらとも言えない	22	13.3%
4	あまり満足していない	7	4.2%
5	全く満足していない	3	1.8%
	無回答	2	1.2%
	合計	166	100.0%



○展示ブースの配置について

N = 166

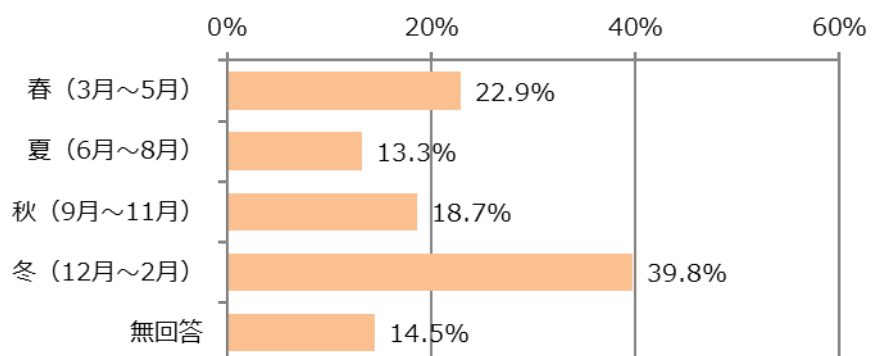
No.	選択肢	件数	割合
1	大変満足している	46	27.7%
2	ある程度満足している	83	50.0%
3	どちらとも言えない	20	12.0%
4	あまり満足していない	14	8.4%
5	全く満足していない	0	0.0%
	無回答	3	1.8%
	合計	166	100.0%



○希望する開催（季節）時期について（複数選択可）

N = 166

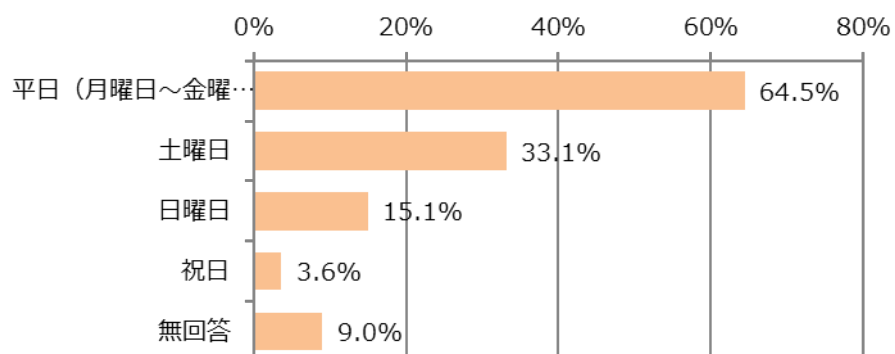
No.	選択肢	件数	割合
1	春（3月～5月）	38	22.9%
2	夏（6月～8月）	22	13.3%
3	秋（9月～11月）	31	18.7%
4	冬（12月～2月）	66	39.8%
5	無回答	24	14.5%



○希望する開催（曜日）時期について（複数選択可）

N = 166

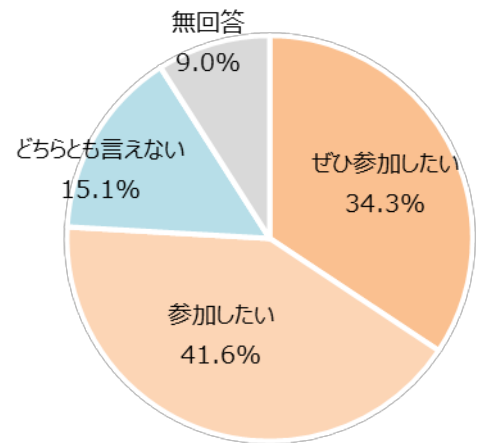
No.	選択肢	件数	割合
1	平日（月曜日～金曜日）	107	64.5%
2	土曜日	55	33.1%
3	日曜日	25	15.1%
4	祝日	6	3.6%
5	無回答	15	9.0%



○次年度の出展について

N = 166

No.	選択肢	件数	割合
1	ぜひ参加したい	57	34.3%
2	参加したい	69	41.6%
3	どちらとも言えない	25	15.1%
4	あまり参加したいと思わな	0	0.0%
5	全く参加したくない	0	0.0%
	無回答	15	9.0%
	合計	166	100.0%



○主な自由記述について

①支援機器開発に関する現状の課題について

- ・ 製造ロット、海外への販路ルート
- ・ 小型化、軽量化、UIの向上
- ・ 製作メンバーの高齢化のため新しい素材、工法等を取り入れることに消極的であること
- ・ 開発費用、開発資金、コストダウン
- ・ 顧客ニーズの発掘、商品過後のPR方法について
- ・ 現場での使用感のフィードバック、現場で真に必要とされている機能等の情報
- ・ 認知度が低いこと、開発機器のPR方法について
- ・ 障害そのものへの理解、福祉用具を使用することの理解が乏しい
- ・ 被験者の少なさ
- ・ 制度上の問題として補装具、日常生活用具として認められない
- ・ 開発後の商品において、ユーザーが利用する前段階で公的補助制度がない

②交流会全般、運営等について

- ・ 子どもの意見を直接聴取したいため、土日開催も検討して欲しい
- ・ 異分野の方々と交流ができた
- ・ 大都市以外の開催も検討してほしい
- ・ 様々な意見交換ができた、今後も交流会を継続して欲しい
- ・ 衝立（パネル）は必要だと感じた
- ・ 製品そのもの以外にも、要素技術の強み・弱みを聞けたら良い交流ができるのではないかと
- ・ 出展機器が場所を取るため通路が狭くなってしまった。大きな機器を展示する場合は別のブースでまとめるのはどうか
- ・ 企業がどのようなことをしているのか、わかるような情報があると良い。
- ・ 福祉関係の学生にも交流会に来て、見て、体験して欲しい。
- ・ 講演やシンポジウムといった様々な企画は必要である

(7) 交流会の目標及び結果

①来場目標数について

本年度の目標来場者数を昨年度の3割増と設定することとした。

この目標を達成するため、併催イベントを大幅に拡充するとともに、開催案内の周知及び広報の強化、さらにホームページによる情報発信力をより一層推進することとした。

また、企画委員が所属する団体等にも積極的な周知をお願いするとともに、各種の学会や、業界・職能団体などにも出掛けて周知したところである。

	来場目標数	本年度の 来場者数	昨年度の 来場者数
大阪会場	430名	345名	320名
福岡会場	190名	166名	127名
東京会場	540名	523名	362名
合計	1,160名	1,034名	809名

しかしながら結果として、3会場ともに目標とした数には達しなかった。

一方、各会場ともに昨年度に比べ増加させることはでき、とりわけ東京会場に関しては、大幅に増加させることができた。

②新規出展企業の増加について

新規出展者の数を全体の3割以上と設定することとした。

この目標を達成するため、新規企業を掘り起こす積極的な募集活動を行った。具体的には関係する業界団体やロボット開発企業、開催地の自治体等へ積極的な広報活動を行ったところである。

結果、各会場ともに3割以上となり、全会場でも新規の割合が約47%となり、目標を達成した。

	全ブース数	新規 出展者数	新規 出展機器数	新規性の割合
大阪会場	60ブース	29社	5点	約57%
福岡会場	41ブース	10社	2点	約30%
東京会場	81ブース	22社	9点	約38%

※複数会場での出展も含めている。

	全企業 団体数	新規 出展者数	新規 出展機器数	新規性の割合
全会場	107 企業・団体	39社	11点	約47%

※上記の数字は複数会場の出展を除いた企業・団体数を指す。

③各会場で50名以上の当事者及び家族・支援者等を招待する

企画委員会の所属する当事者団体にご協力をいただき、各会場で50名以上の当事者及び家族・支援者等を招待することを目標として設定することとした。

この目標を達成するため、各団体等においては、広報誌やメール等にてご周知いただくとともに、当協会でも内外の機関誌や講演会等において積極的な周知を行った。

結果、これについては各会場で聞き取りなどを行ったところであるが、正確な数を把握することが困難であった。

一方、本交流会の参加者総数1,034名のうち、ニーズ側の参加者が420名と全体の4割以上をしめたことから、シーズとニーズの交流を図る本会の目的は、一定程度果たすことができた。

(8) 今後の交流会の方策、在り方について

①今年度の振り返り

今年度は、より多くの来場者に来ていただけるよう、併催イベントの充実、周知先を増やすこと、新規企業や製品の出展数を増やすこと等により、来場者の増加を目指した。しかしながら、結果として、昨年度に比べ来場者は増加したものの、3割増とした目標数までは達しなかった。

大阪会場や福岡会場で来場者が伸びなかった理由として、両日とも天候不順により障害当事者の方々が外出しづらかったことが考えられる。加えて、福岡会場については、今年度より福岡国際会議場に会場を変更したが、最寄りの駅から離れており、バスやタクシーでの移動が必要となったため、障害当事者が来場するには負担が大きかった可能性がある。また、東京会場については、新型コロナウイルスの影響が出はじめたところであり、来場者が伸び悩んだことも理由として考えられる。また、どの会場においても、職場の人手不足の関係で職員を研修会などへ参加させることが容易でないとする意見が聞かれた。

一方、来場された方については、1ブースあたり時間をかけてまわり、体験や意見交換を通じて十分交流することができ、アンケート調査でも回答いただいた7割以上の方が次年度も参加したいと回答があった。

東京会場では、強化段ボールを使った幼児用ボックスチェアのワークショップを行う傍ら、小児向けの児童遊具を設置したが、対象となる児童や父母の来場は全く閑散とした状況であった。周知先には特別支援学校などにも開催案内を送付したが、開催が平日ということもあり児童や父母が来場しづらい曜日であったことも理由として考えられる。

また、今年度は、昨年度に比べ予算を削減したこともあり、開催前日の設営準備や出展者名用バックパネルの廃止、会場設営の人員削減を行うこととなった。これにより、事務局や出展者等に大きな負担となった。

出展者及び来場者からは、各出展ブースにバックパネル及び社名入り看板がほしいとする意見が聞かれた。

②今後の方策について

今年度は、併催イベントの充実、周知先を増やす、新規企業や機器等の出展をしていただくことで、昨年よりも来場者を増やすことができた。

引き続き、多くの方々に「シーズ・ニーズマッチング交流会」の認知を広めることが来場者を増やすことにつながると考える。

より多くの方々に来場していただく方策として、開催地域や障害当事者の方々が来場しやすい会場とするとともに、職能団体等の学会や障害者福祉に係る地域のイベントなどと連携して交流会を開催することも、予算を有効に活用し、また参加者を増加させる一つの方策として考えられる。

引き続き、障害当事者団体とは連携を図り、当事者・家族、関係者の皆様へ本交流会への参加を呼びかけるとともに、シーズとニーズのマッチングにご協力いただきたい。

③今後の交流会の在り方について

○学会や地域のイベント等と連携した交流会の開催

- ・学会など多くの医療福祉の従事者、エンジニア等の会員が集まる学術大会などと連携して、シーズ・ニーズマッチング交流会を開催することで、多くの来場者の集客が見込めるのではないかと。

○マッチング交流会以外のマッチング方策

- ・当協会では、平成21年度より「福祉用具ニーズ情報収集・提供システム」を運用している。このシステムは、より良い福祉用具の開発のため、当事者の方や介護されている方から福祉用具に関する要望・アイデア（ニーズ）を収集したり、福祉用具を研究開発している企業などから新しい技術や製品情報（シーズ）を紹介することで、ニーズとシーズの双方の意見交換を行えるインターネット上の掲示板の運営を行っている。
- ・現在、当該のシステムにおいて改修を行っているところであり、次年度からモニター協力先（施設や病院など）を募集する予定である。
- ・本システムを活用することで、交流会期間外であってもシーズとニーズのマッチングを促進させる手立てになるのではないかと。

○ATAサテライト（意見交換会）の開催

- ・今年度から交流会への参加が容易でない地域で「ATAサテライト（意見交換会）」を開催し、ニーズとシーズの意見交換する場を設け、障害者等の置かれている課題などを共有化し、必要な支援機器のコンセプトを検討した。
- ・この取り組みは地域の方々を中心に行った。
- ・今後、さらにニーズの深掘りをするとともに、地域や回数の拡充を図ってはどうか。
- ・また、提案した地域と実際の開発企業を繋げる仕組みを検討してはどうか。

○バックパネル及び社名入り看板等について

- ・予算的なこともあり、今年度はバックパネル及び社名入りの看板の準備等を廃止した。一方、出展者に限らず来場者からも必要ではないかとする意見が寄せられた。
- ・バックパネルの廃止に伴い、配置をわかりやすく示した一枚ものでチラシを作成したり、各会場に多くの掲示版を設けたところであるが、予算面等を工夫してバックパネル等を設置できないか。